

地業工事

砂・砂利・割り石・捨てコンクリート地業

地業種別	厚さ	施工範囲
砂利地業	60mm	基礎スラブ下・基礎梁下・土間コンクリート下・土に接するスラブ
割り石地業	150mm	基礎スラブ下・基礎梁下・土間コンクリート下・土に接するスラブ
捨てコンクリート地業	50mm	基礎スラブ下・基礎梁下・土間コンクリート下

○ 捨てコンクリートの設計基準強度は150kg/cm² スラブは15cmとする。

○ 直接基礎の許容地耐力

基礎の掘入れ深さ	支持地盤の土質	長期(短期)許容地耐力	備考
SGL-	m	() t/m ²	
SGL-	m	() t/m ²	
SGL-	m	() t/m ²	

既製コンクリート杭地業・鋼杭地業

杭種	杭径・杭長	杭先端位置	長期(短期)許容耐力	備考
		SGL-	m () t/本	
		SGL-	m () t/本	
		SGL-	m () t/本	

- 杭の設置工法は()とする。
- 杭の先端部形状は()とする。
- 杭先端の掘入れの基準は()とし、地盤の状況・杭の施工状況などにより上記杭先端位置を変更することがある。ただし、杭長1m以内の増減については精算しない。
- ヤットコの使用は(3m・)まで可とする。なお、打撃工法の場合の支持力算定式の減減は(20%・)とする。

その他の地業

○

杭の施工試験(杭打ち試験・掘削試験等) (有・無)

- 図示または係員の指示する場所()箇所行う。
- 試験杭の長さは本杭+()mとする。

杭の載荷試験(鉛直・水平・引抜き) (有・無)

- 杭底部の杭径は(設計径・)を示す。
- 試験杭の仕様は()とする。
- 最大載荷荷重は()t、載荷段階は()とする。
- 反力は()による。

地盤の載荷試験 (有・無)

- 図示または係員の指示する場所()箇所行う。
- 最大載荷荷重は()tまたは()t/m²載荷段階は()とする。
- 反力は()による。

鉄筋・コンクリート工事

鉄筋等 JIS規格品とする。

種類	記号	呼び名(径)	使用区分	継手	備考
異形鉄筋	SD295A	D10~D16	床版・壁筋・帯筋	魚ね	
	SD345	D19以上	柱	ガス圧接	
溶接金網	SWM-B				
鉄筋格子	SD295A				

- ガス圧接工に従事する圧接工は、JIS Z 3881による(2・)種有資格者とする。
- ガス圧接する鉄筋は同一製造所のものを原則とする。

型枠

- 化粧打放しコンクリート用せき板は(樹脂塗装板・普通型枠合板)を用いる。

コンクリート

コンクリート番号に○印を付したものは、標準仕様書によらず、下表の特記事項のみを規定する。

番号	種類	設計基準強度(kg/cm ²)	所要スランプ(cm)	単位水量の上限量(kg/m ³)	使用区分	備考
1	普通	210	18	185	躯体コンクリート	

- セメントは(普通ポルトランドセメント・)を使用する。
- 番号(1)のコンクリートにはAE減水剤(1種・)を使用する。
- 番号()のコンクリートは、原則として温度補正を不要とする。
- 高性能AE減水剤の使用 (有・無)
 - ・ 使用範囲はコンクリート番号()と減水率または減水量はAE減水剤と比べ(4~5%)または(8~10kg/m³)減とする。
 - ・ 通常の試し練りの他、捨てコンクリート等を利用して実機試験を行う。

運搬および打込み

- コンクリートポンプによる圧送を行う者は、コンクリート圧送施工技能士1級又は2級の技能を有する者とする。
- コンクリート打込み員は、その品質管理のため(主任技術者・)は必ず立会わなければならない。
- コンクリート打込み量は(30・)m³/時間・台 以内とする。ただし(基礎スラブ・基礎梁・)は(40・)m³/時間・台 以内とする。
- 外部駆動機(型枠バイブレータ)の使用 (有・無) 使用範囲()

検査および試験

—下記の○印の検査を行う。

検査項目	試験項目	備考
鉄筋 *2	機械的性質(形状寸法および質量)	*1 ○印に示す試験を行う。なお、○印の有無にかかわらず、全試験項目について品質管理成績表、又は機械的性質・形状寸法
	化学的性質(JIS規格以外にCu・Cr・Ni・Snの成分検査を含む)・(圧接)	
溶接金網・鉄筋格子	機械的性質・形状寸法	
材料検査	セメント	圧縮強さ・アルカリ量 *4
	砂	比重および吸水率(粘土含量)・洗い試験・有機不純物(塩分)・粒度および粗粒率・アルカリシリカ反応性試験
	砕石・砂利	比重・吸水率・粘土含量・洗い試験・実積率・粒度および粗粒率・安定性・すりへり減量・アルカリシリカ反応性試験
	化学混和剤	減水率・ブリージング量・圧縮強度・曲げ強度・長さ変化・凝結時間 凍結融解に対する抵抗性・過剰添加による影響・塩分含有量
鉄筋の加工および組立ての検査	標準仕様書に示されている項目およびスペーサー・バーサポートの位置	ガス圧接部検査(抜取り検査)
圧接工の技量確認試験	引張および曲げ試験 各5本・削り仕様・試験径() 材種()	試験方法は別に定める要領書による。但し、1年以内の試験結果がある場合は免除できる。
試し練り検査	標準仕様書に示されている項目	コンクリート番号()について行う。
荷卸し地点のコンクリート検査	標準仕様書に示されている項目	すべてのコンクリート番号について行う。
打込み地点のコンクリート検査	標準仕様書に示されている項目	コンクリート番号()について行う。
コンクリート打上がり検査	標準仕様書に示されている項目	

鉄骨工事

鋼材 JIS規格品とする。

品質	使用鋼材の名称	備考
SS400	形鋼・鋼板・平鋼	
STK400	鋼管	
SSC400	軽量形鋼	

- SM490Aの電引広幅平鋼を使用する場合は下記による。
 - ・ 板厚は30mm未満、板幅は300mm以下とする。
 - ・ 使用鋼材は原則として抜取りによる成分分析を行ない、下表の化学成分を満足することを確認する。(%)
- | C | Si | Mn | P | S | Cu | Cr | Sn |
|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|
| 0.18以下 | 0.40以下 | 1.50以下 | 0.03以下 | 0.013以下 | 0.20以下 | 0.20以下 | 0.04以下 |
- ・ 機械的性質確認試験 (有・無) JISの値を満足することを確認する。
 - ・ 成分分析および機械的性質確認試験(降伏点、引張強さ、伸び)を行う場合の抜取りロットの単位は板厚、板幅毎に50tを1単位とし試験体数は3個とする。ただし1ロットが10tに満たない場合には、係員と協議の上を省略することができる。

高力ボルト

—下記の○印の高力ボルトを使用する。

名称	高力ボルトの種類	ねじの呼び	トルク係数値による種類	備考
○ JIS系高力ボルト	F10T	M16, M20, M22	M20以上はA種	S10T快取不可能部
○ トルンパ高力ボルト	S10T (F10T)	M16, M20, M22		
溶接部締め高力ボルト	F8T		A種	建築基準法による認定品

- 高力ボルトの製品検査は JIS B 1186 の規定により行う。ただし、製造所の品質管理が、JISの規定によって十分に管理されていることが確認された場合は、係員の指示により試験の種類・本数を減らすこととする。
- 摩擦面の処理は すべり係数値が 0.45 以上となるように行う。ただし溶接部締め高力ボルトを使用する部分は 0.40以上とする。
- 摩擦面のすべり係数確認試験 (有・無) ただし、溶接部締め高力ボルト使用の場合は行う。試験は現場での施工条件に対する試験片にて行う。

ボルト・ナット・座金およびアンカーボルト

名称	品質	ねじの呼び	備考
ボルト・ナット・座金	SS400		戻り止めナット使用(無・)、ばね座金使用(無・)
アンカーボルト・ナット・座金	SS400	M28	ナットは2重とし座金使用

- ボルト接合の場合、ボルト頭およびナット下に各1枚座金を使用する。

スタッド JIS規格品とする。

名称	呼び名	形状・寸法	備考
頭付きスタッド	19φ	H=100	施工試験(無・)

仮組立 (有・無)

- 仮組立の範囲は()とする。

溶接工の技量検定付加試験 (有・無)

- 試験要領は、追加仕様書「溶接工技量検定付加試験 標準仕様書」による。
- 受験する人数は製作工数・製作工期等を勘案し決める。
- 受験者は下表○印の試験を受験して合格しなければならない。また本工事で作業をする溶接方法(手溶接か半自動溶接)は、溶接工技量検定付加試験で合格した溶接方法と同じでなければならない。

—下記の○印の試験を行う。

種別	試験片材の材質	備考
A種	SM490A	
B種	SS400	
C種(1及び2)	STK490	

- 試験に使用する溶接棒または鋼ワイヤは、本工事に使用するものと同一とする。
- 本工事で特殊タブを使用する場合は、技量付加試験を追加する。その場合溶接姿勢は下向を原則とする。

溶接部の超音波探傷検査

- 標準仕様書F・5・3・a項の超音波探傷検査を実施する技術者は、CIW(日本溶接協会溶接検査認定委員会)で認定を受けた事業所に所属する主任試験技術者または試験技術者とする。
- 上記検査事業所は、元請け業者負担の発注とする。
- 採取率は、(10・)%以上とする。採取方法は柱1箇所とし、検査ロットは溶接部位毎に構成し、1検査ロットの溶接箇所数を300箇所程度とする。抜取りはランダムサンプリング方法を原則とする。

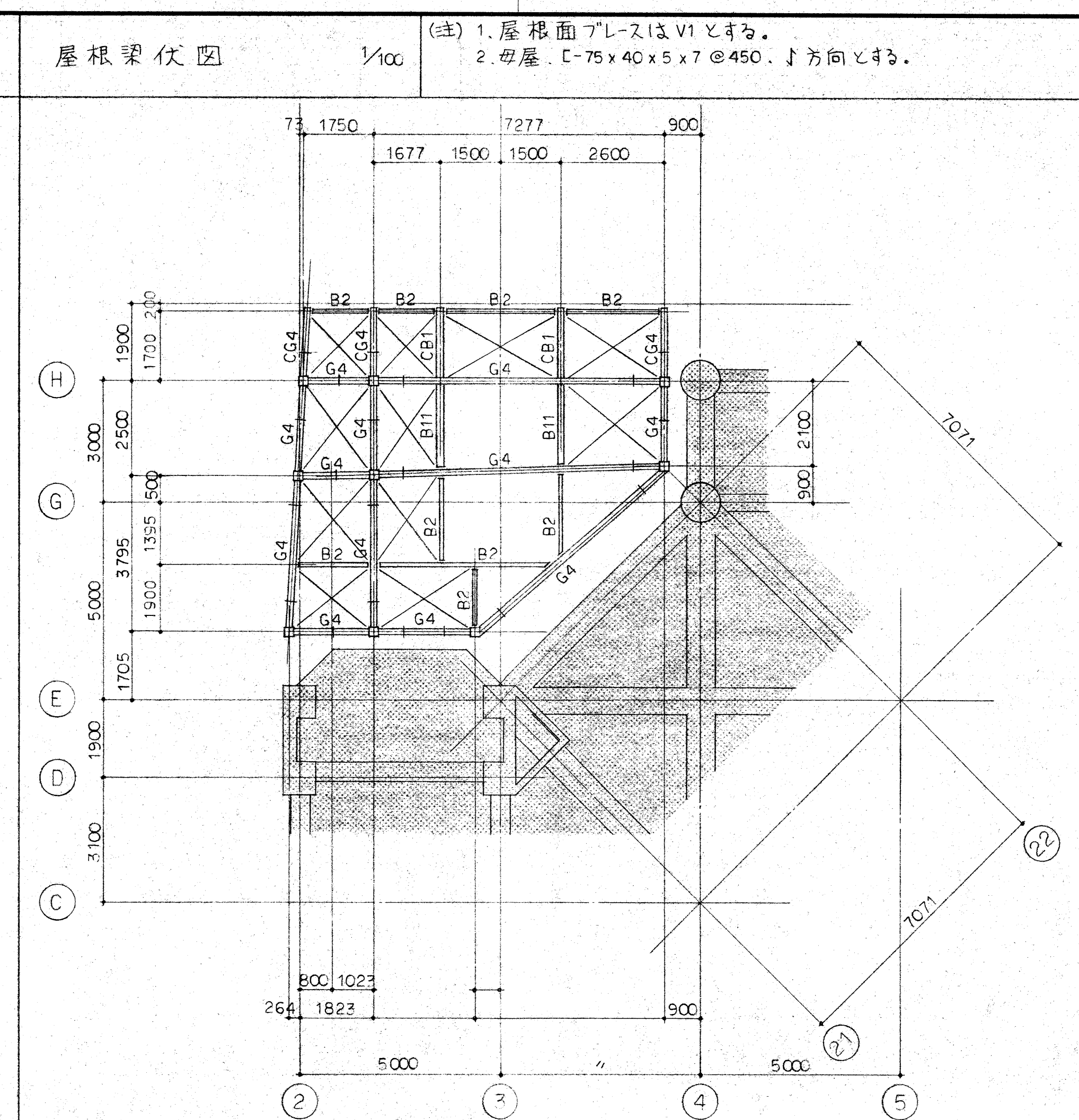
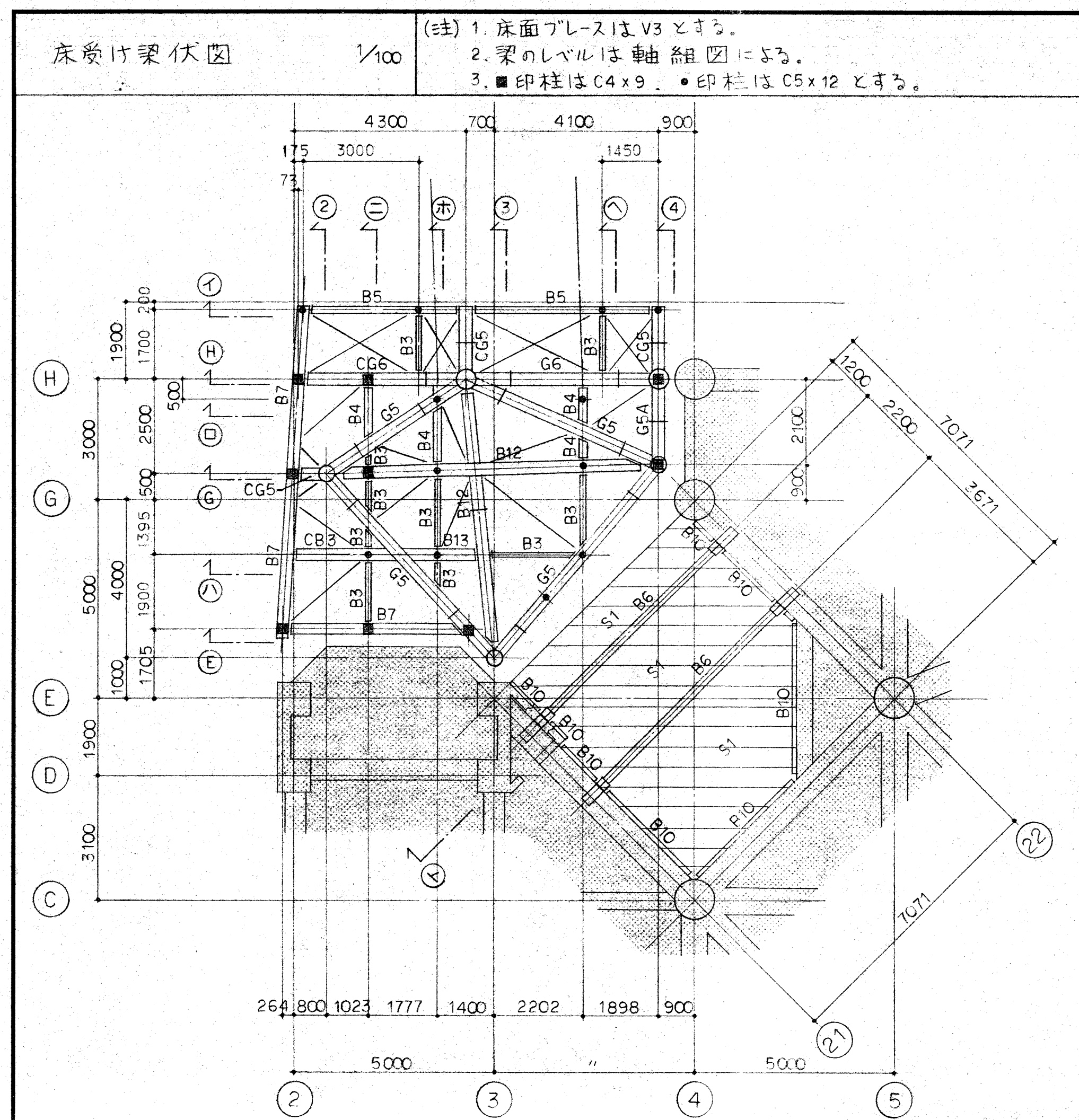
防錆塗装

- 防錆塗装 (有・無)

仕様	素地ごしらえの種類	錆止め塗装(工場塗装)	塗装区分
1	(3・)種	JISK(5621・)2回塗	
2			

- 高力ボルト接合部、および現場溶接部の補修塗装は、上記と同等の性能となるよう施工のこと。
- 上記防錆塗装で無の場合でも、設備配管用スリーブの内面には塗装仕様1を行う。

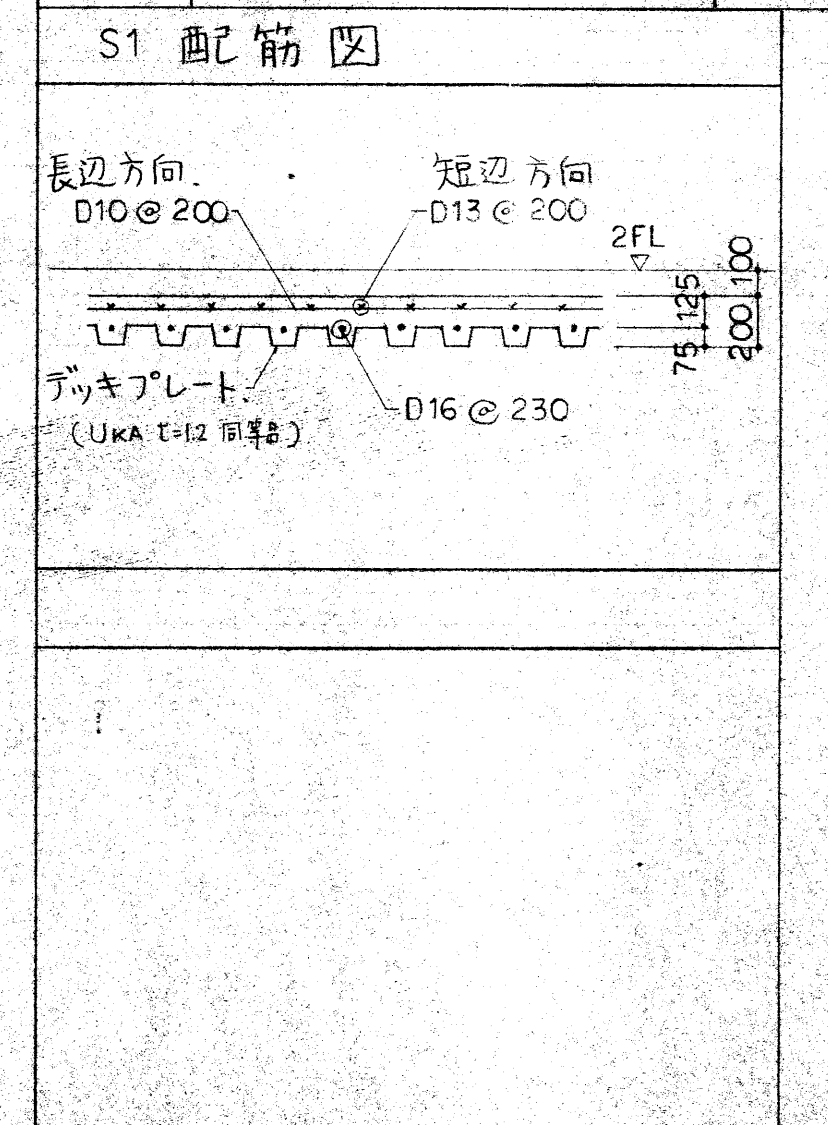
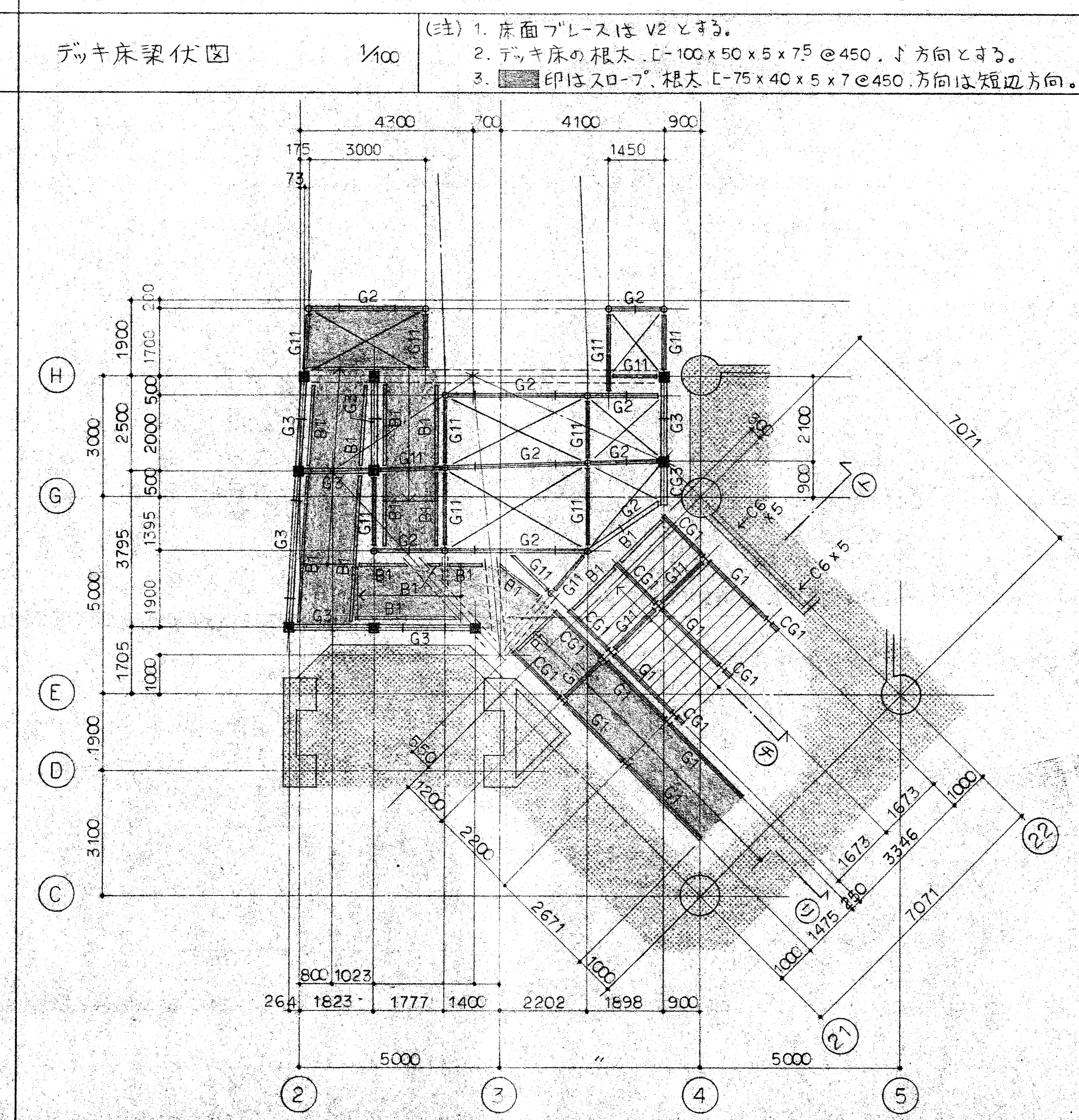
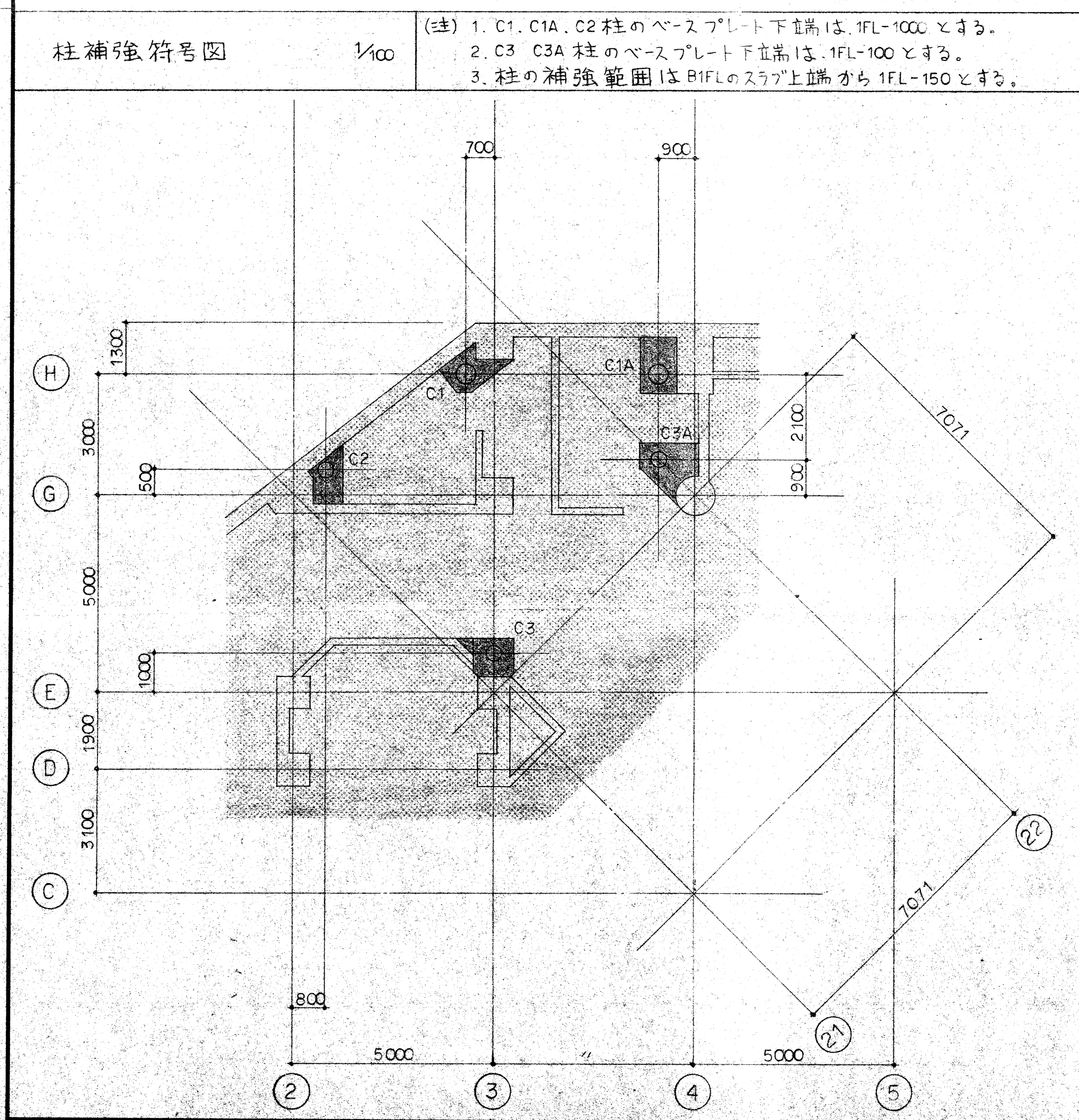
路線名			
工事名	府中駅北口歩道橋設置工事		
工事箇所又は橋名	府中市府中町一丁目1番地及び14番地		
図面名称	グリーングラフ	縮尺	図面番号 32
作成年月日	平成 年 月 日		
専任調査設計照査主査	副主査	課長	次長
東京都府中市都市建設部			



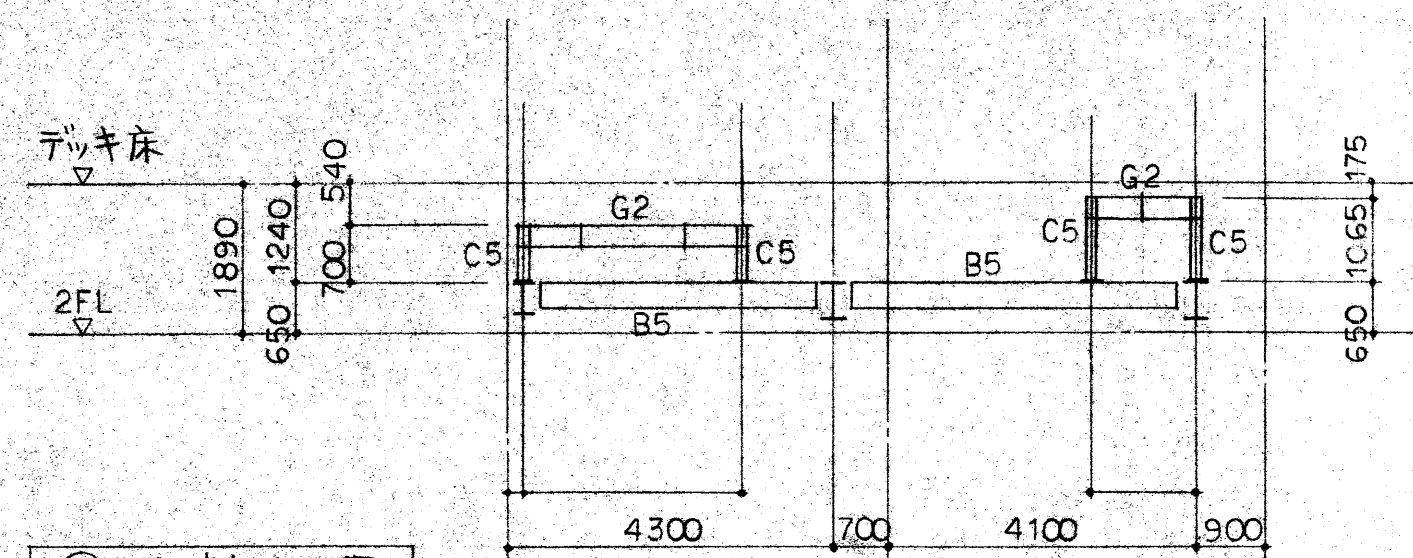
部材断面表 (継手ボルト表)

(注) 1. 鋼材品質 SS400, STK400.
2. 高力ボルト, F10T, M16 ***印, M20 ++印, M22 +印とする。

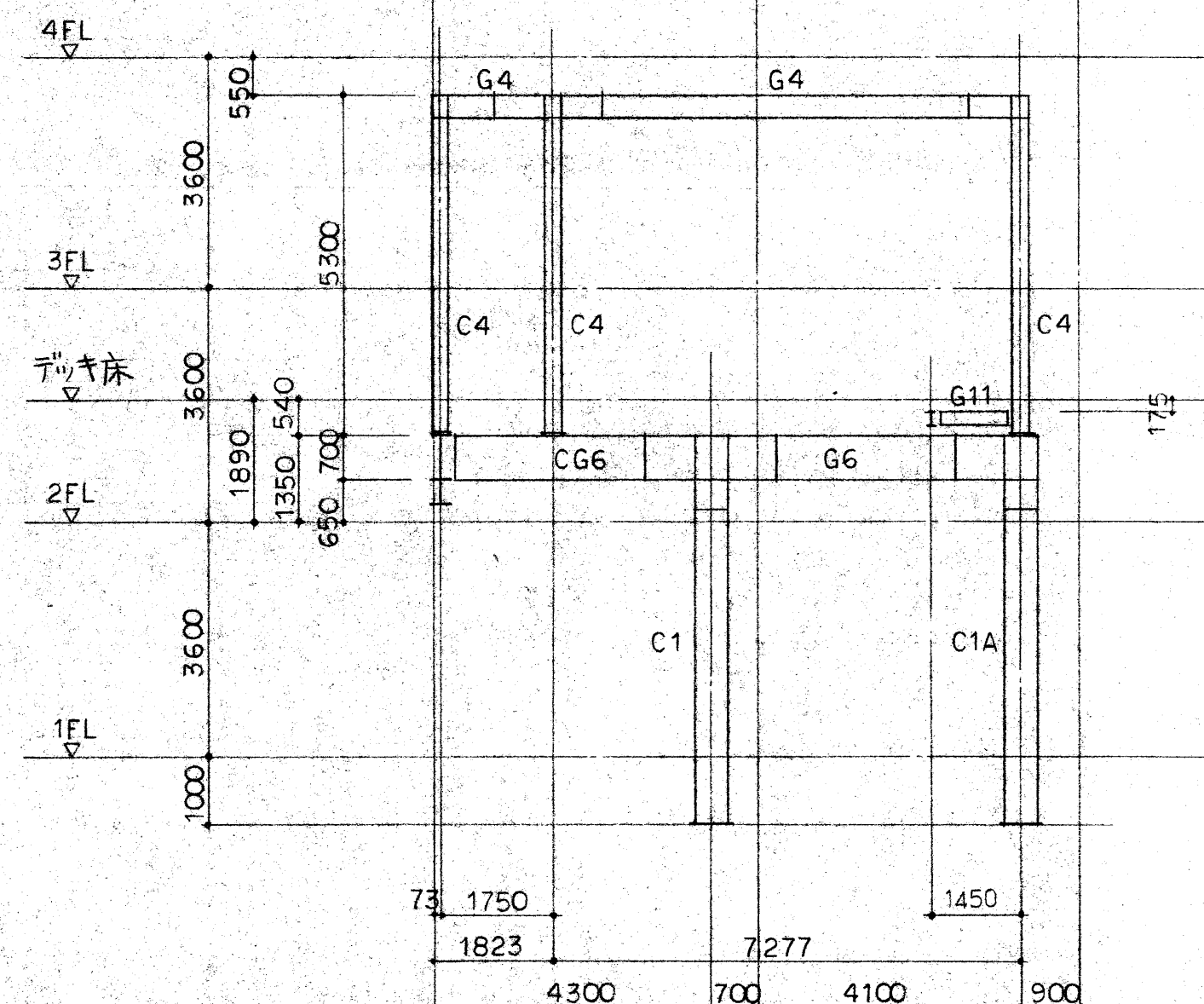
符号	部材断面	フランジ継手		ウェブ継手	備考
		ボルト本数	外側添板	内側添板	
C1 (C1A)	P-508 ⁰ φ×14				
C2	P-406 ⁴ φ×12.7				
C3 (C3A)	P-406 ⁴ φ×12.7				
C4	□-250×250×9				
C5	P-165 ² φ×6.0				
C6	H-198×99×4.5×7				
G1	H-198×99×4.5×7				柱に溶接とする。
CG1	H-248×124×5×8	6-M16		2-M16	
G2	H-248×124×5×8	R-9×125		2R-6×150	
CG2	H-248×124×5×8	6-M20		2-M20	
G3	H-244×175×7×11	R-12×175		2R-6×170	
CG3	H-244×175×7×11	6-M20		3-M20	
G4	H-346×174×6×9	R-9×175		2R-6×170	
CG4	H-346×174×6×9	8-M20		5-M20	G5AはWH-440×300×12×19(22)詳細参照
G5	H-440×300×11×18	R-12×300	R-14×110	2R-9×170	
CG5	H-440×300×11×18	10-M20		8-M20	
G6	WH-722×300×14×22	R-12×300	R-16×110	2R-9×170	
CG6	WH-722×300×14×22				
G11	H-198×99×4.5×7			2-M20	
B1	H-198×99×4.5×7			G.R-9	
B2	H-200×100×5.5×8			2-M20	
B3	H-248×124×5×8			G.R-6	
B4	H-294×200×8×12			2-M20	
B5	H-346×174×6×9			G.R-9	
B6	H-496×199×9×14			2R-6×175	G.R-9
B7	H-390×300×10×16			3-M20	
B10	C-300×90×9×13			G.R-9	梁上面頭付スタッド 1-19φ@230 H=100
B11	H-346×174×6×9			4-M20	
CB1	H-346×174×6×9	6-M20		3-M20	後施工アンカー M22@200(予付) CB1梁端のみ剛接。
B12	H-390×300×10×16	R-9×175		G.R-9	
CB2	H-390×300×10×16	8-M20		4-M20	格子梁中央のみ剛接。
B13	H-440×300×11×18	R-9×300	2R-12×110	2R-9×170	
CB3	H-440×300×11×18	8-M20		5-M20	CB3梁端のみ剛接。
CB3	H-440×300×11×18	R-12×300	2R-14×110	2R-9×170	
V1	L-50×50×6			2-M16	
V2	L-65×65×6			G.R-6	
V3	L-75×75×6			3-M16	
V4	2L-65×65×6			G.R-6	
V5	2L-75×75×6			4-M16	
母屋	C-75×40×5×7			G.R-6	
根太	C-100×50×5×7.5			3-M16	
根太	C-100×50×5×7.5			G.R-6	



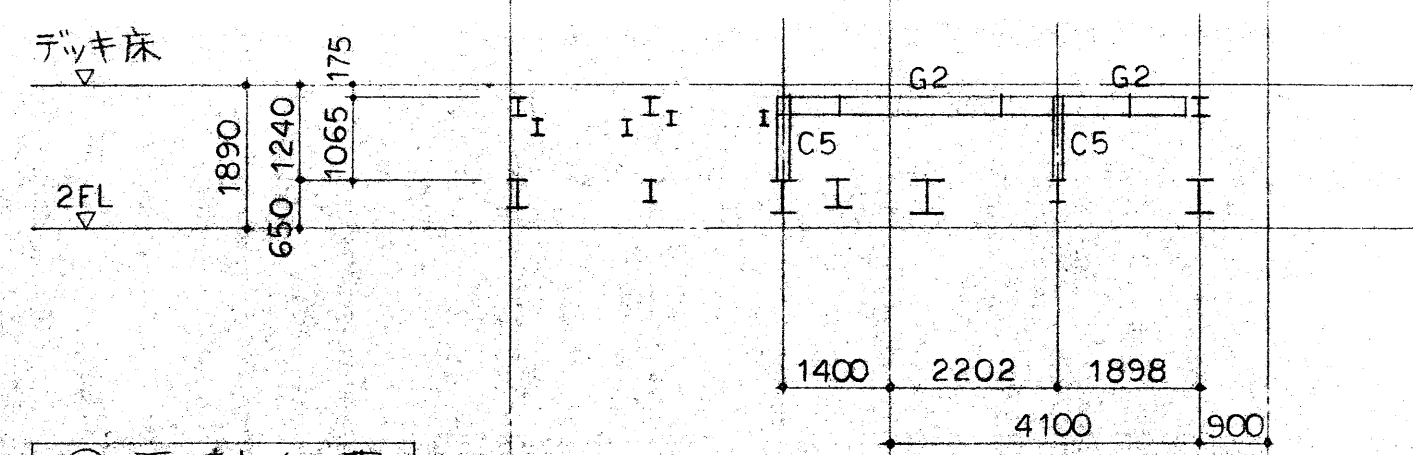
路線名	府中駅北口歩道橋設置工事		
工事名	府中市府中町一丁目1番地及び14番地		
工事箇所又は橋名	府中市府中町一丁目1番地及び14番地		
図面名称	グリーンプラザ デッキ床、屋根伏図、部材断面表	縮尺	1/100
図面番号		図面番号	33
作成年月日	平成 年 月 日	作成者	
写図	測量設計 照査 主査 副主査 監理 次長 部長		
東京都府中市都市建設部			



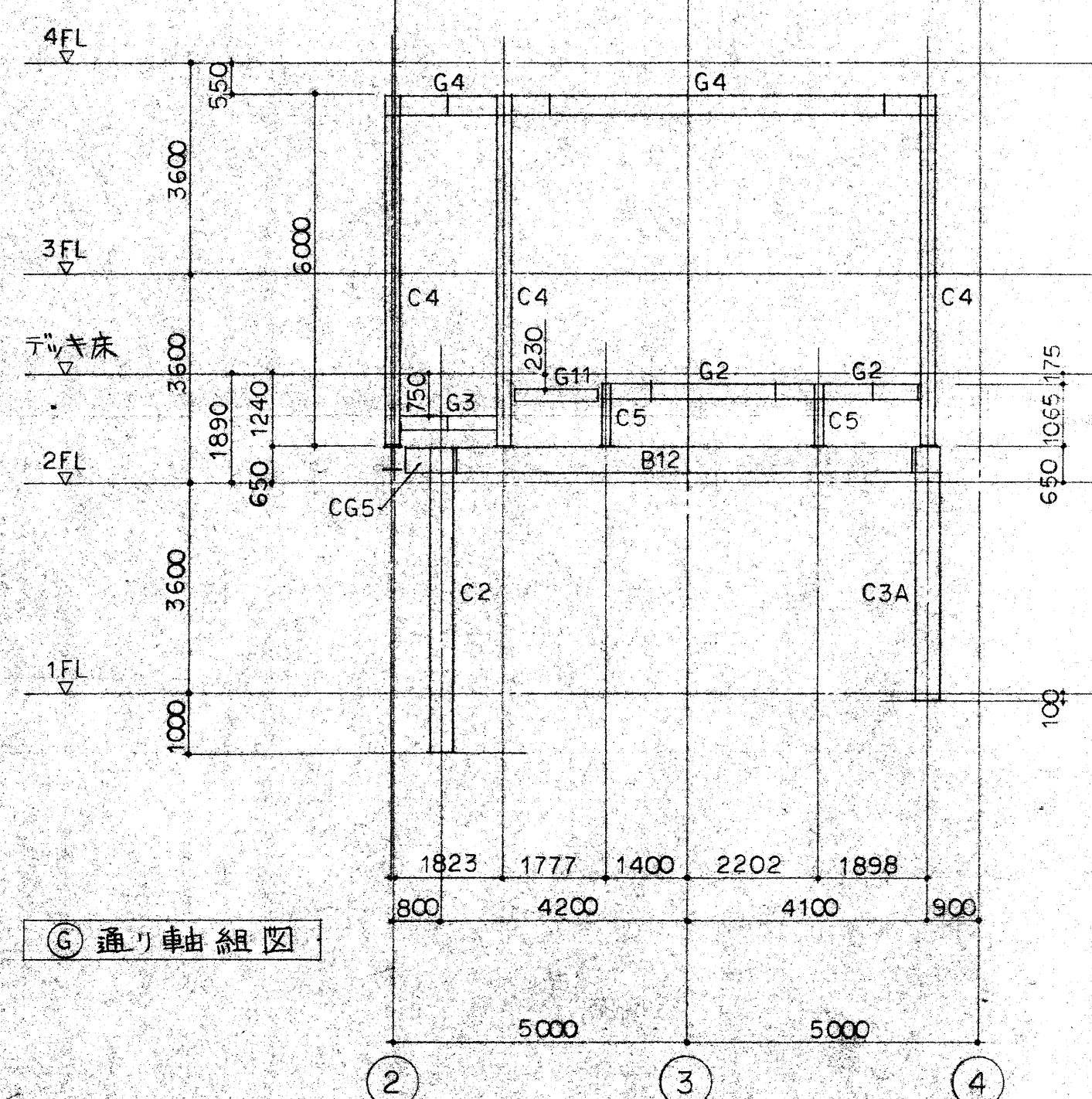
① 面軸組図



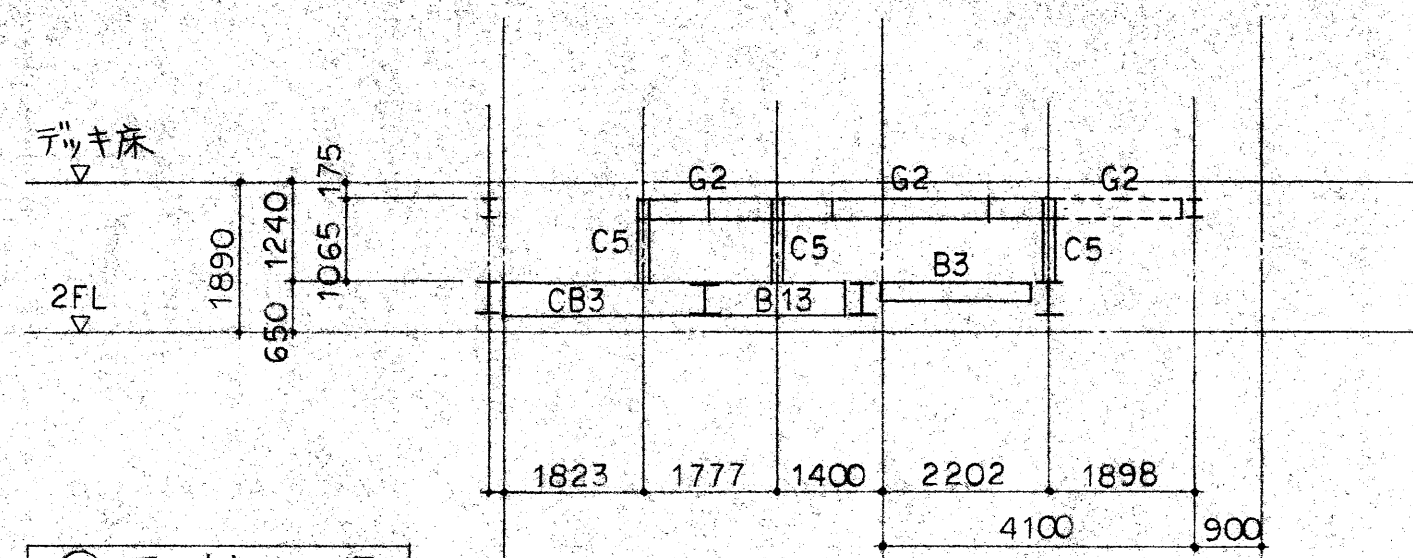
② 通り軸組図



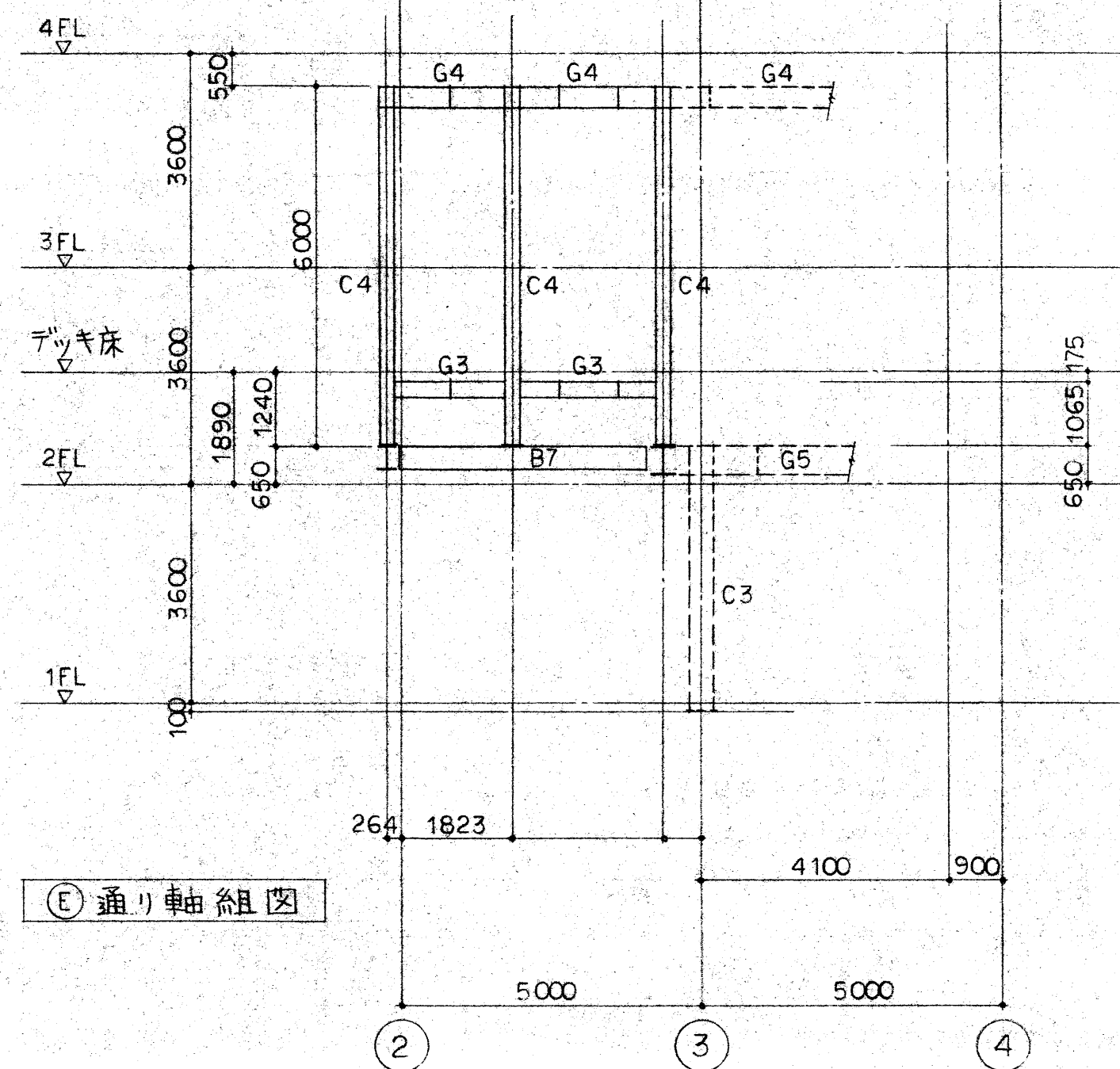
③ 面軸組図



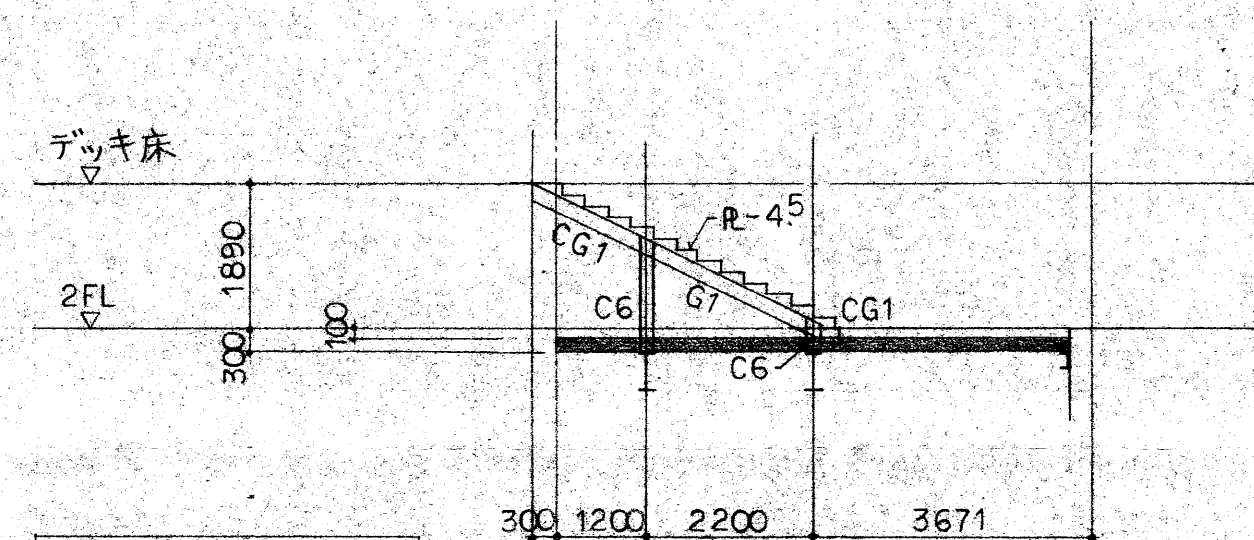
④ 通り軸組図



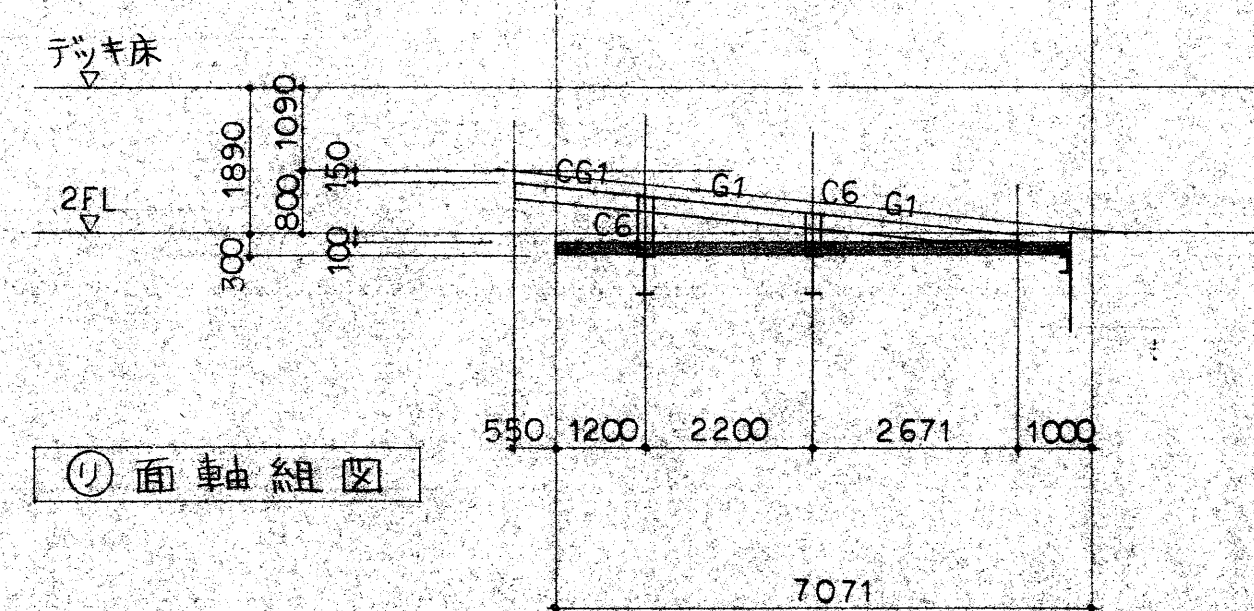
⑤ 面軸組図



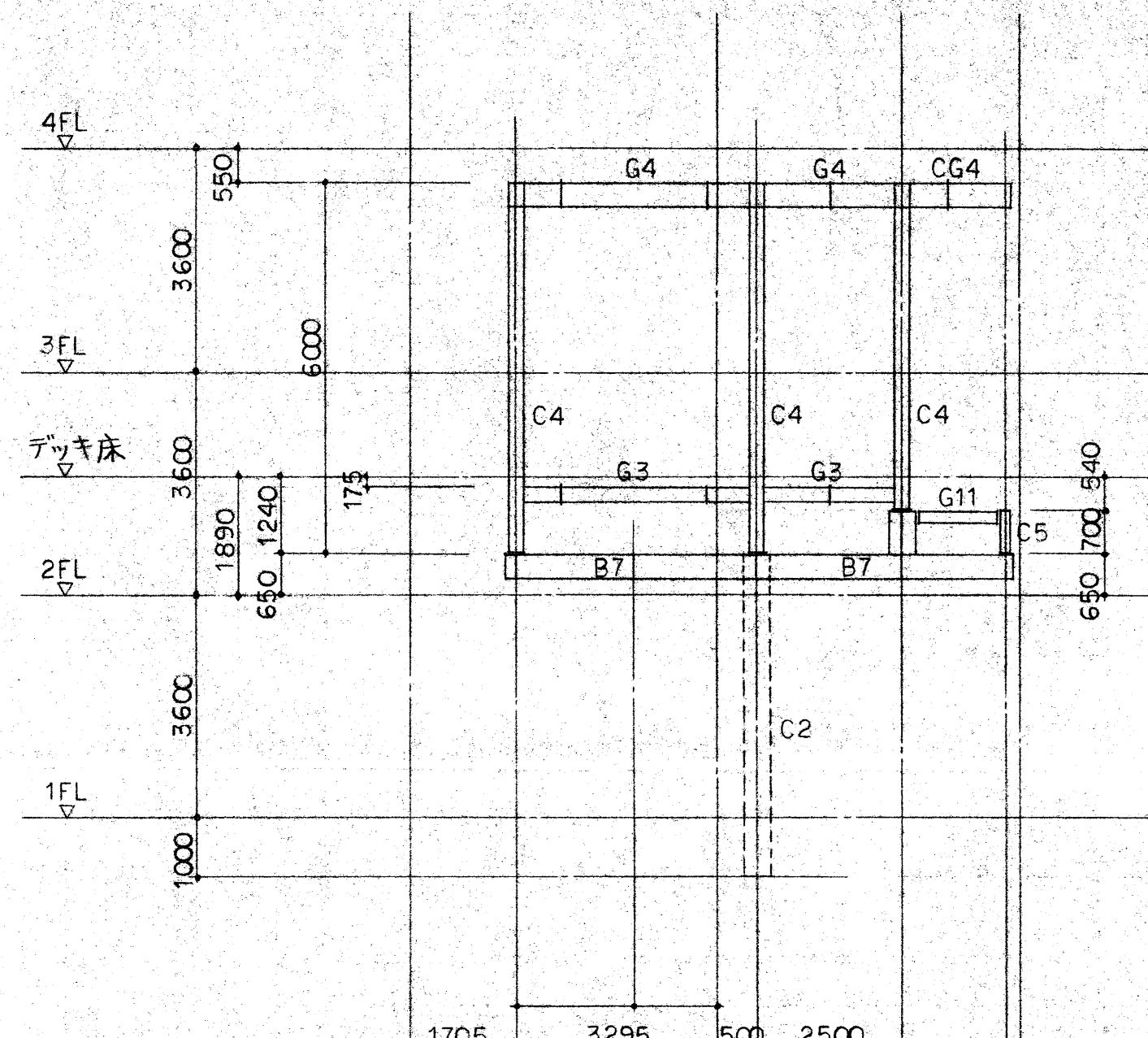
⑥ 通り軸組図



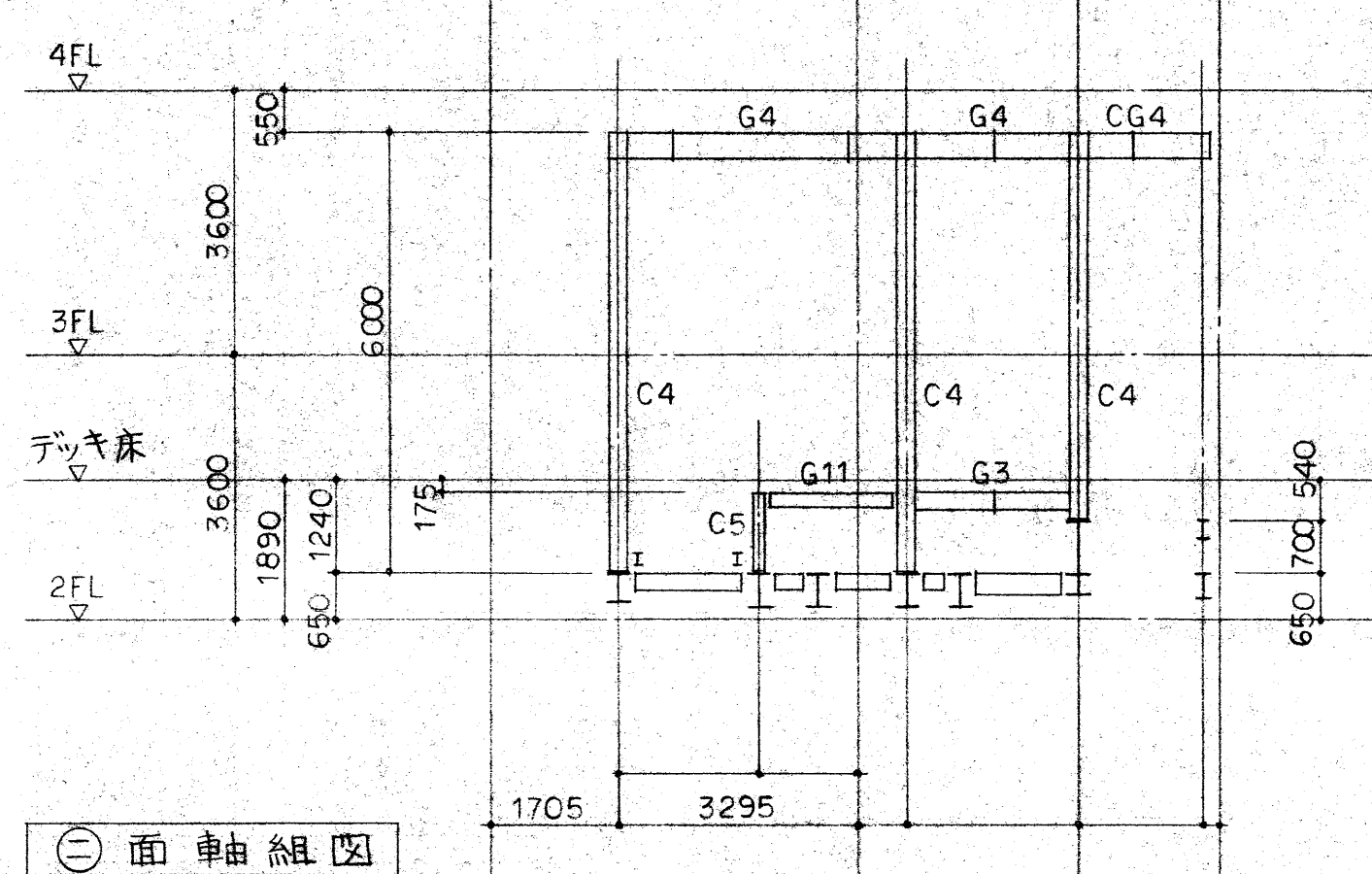
⑦ 面軸組図



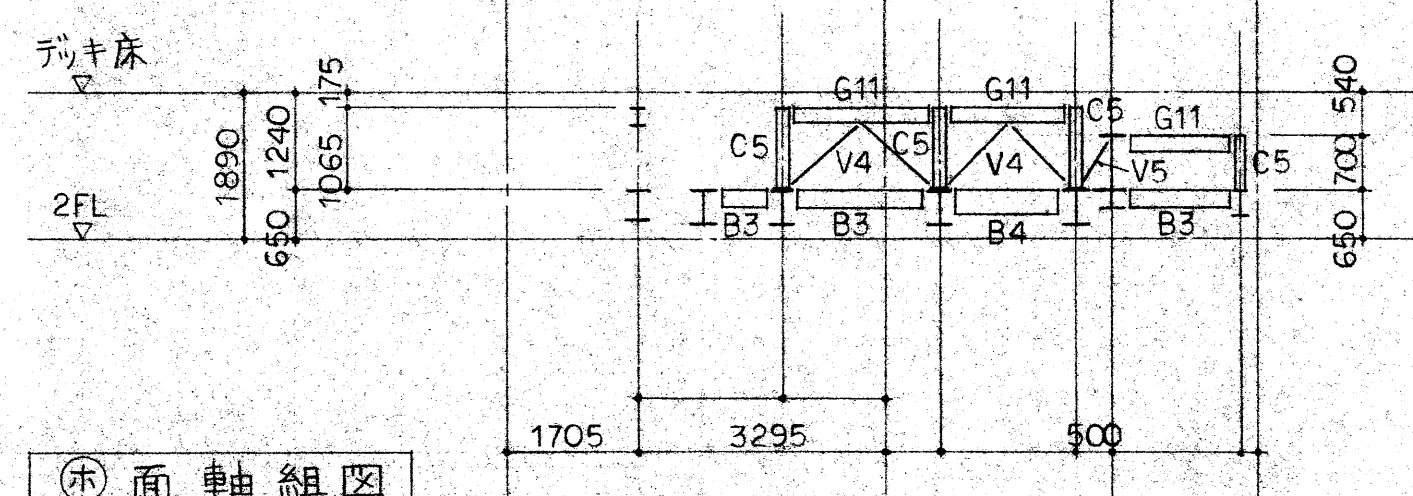
⑧ 面軸組図



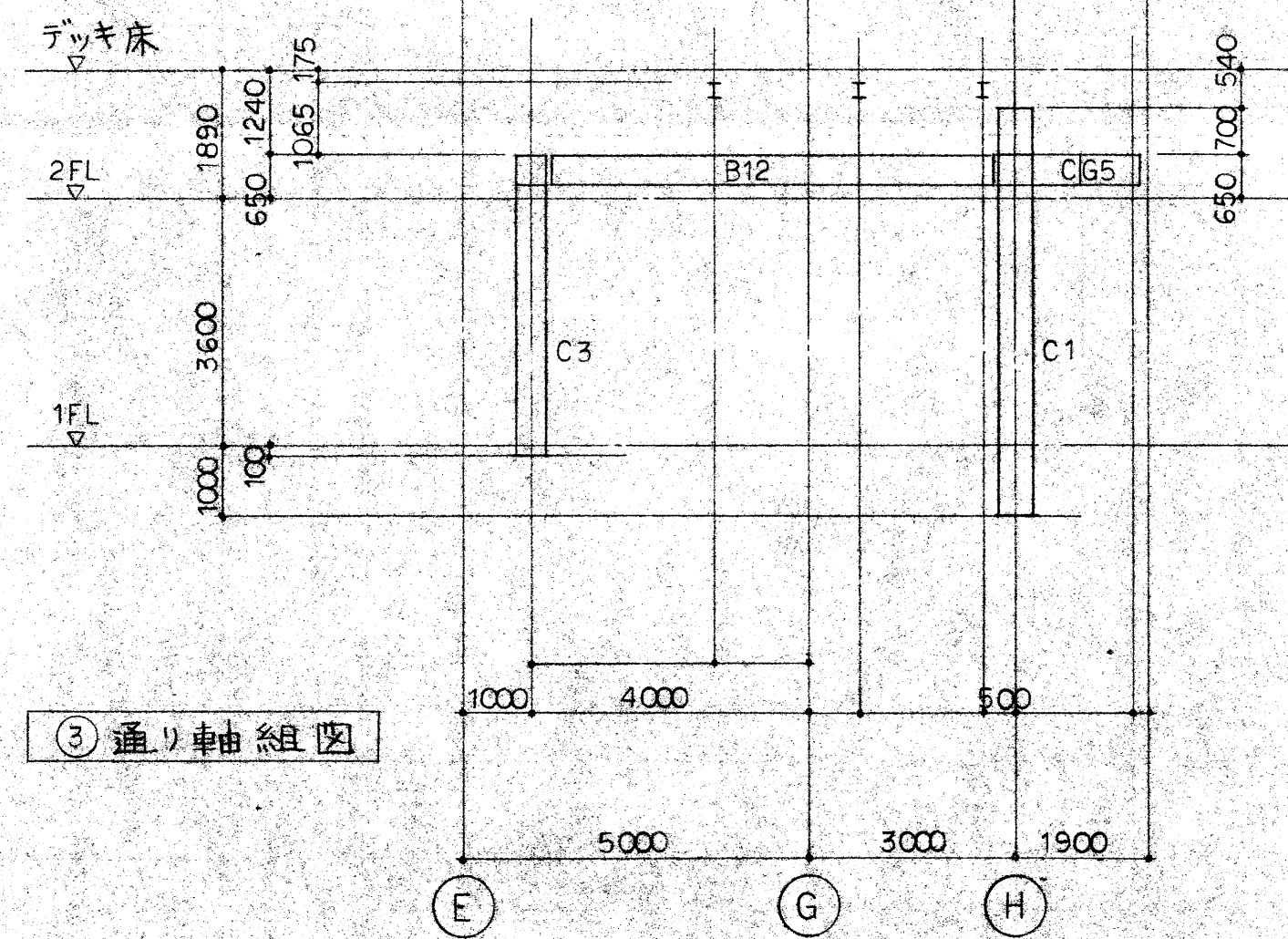
⑨ 通り軸組図



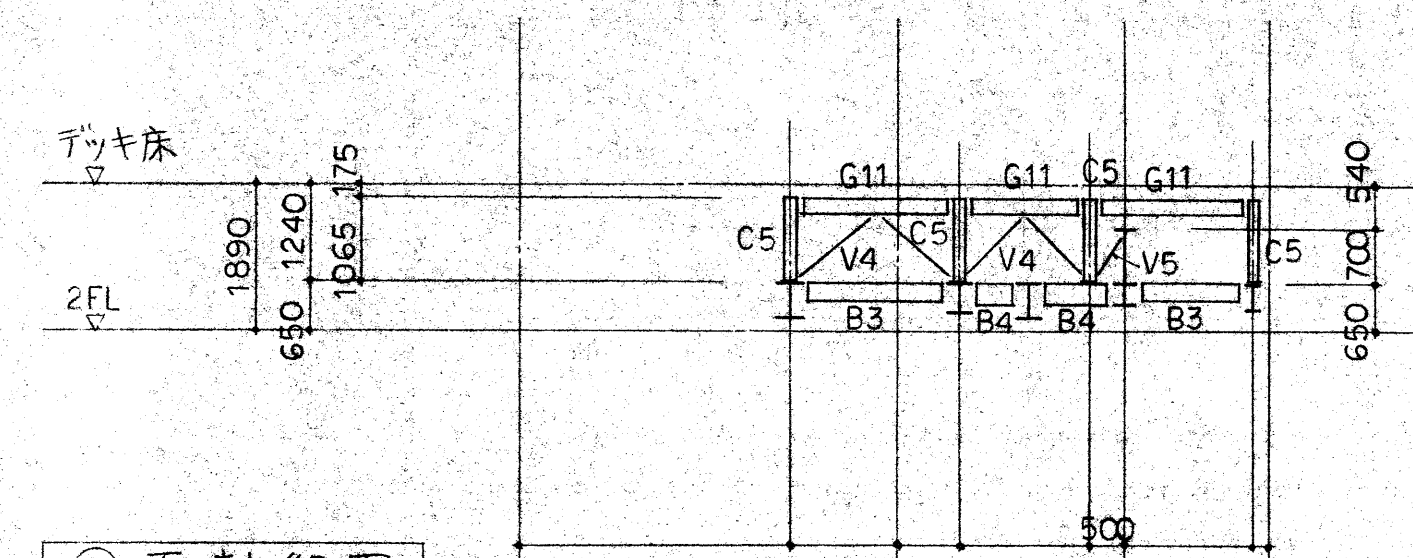
⑩ 面軸組図



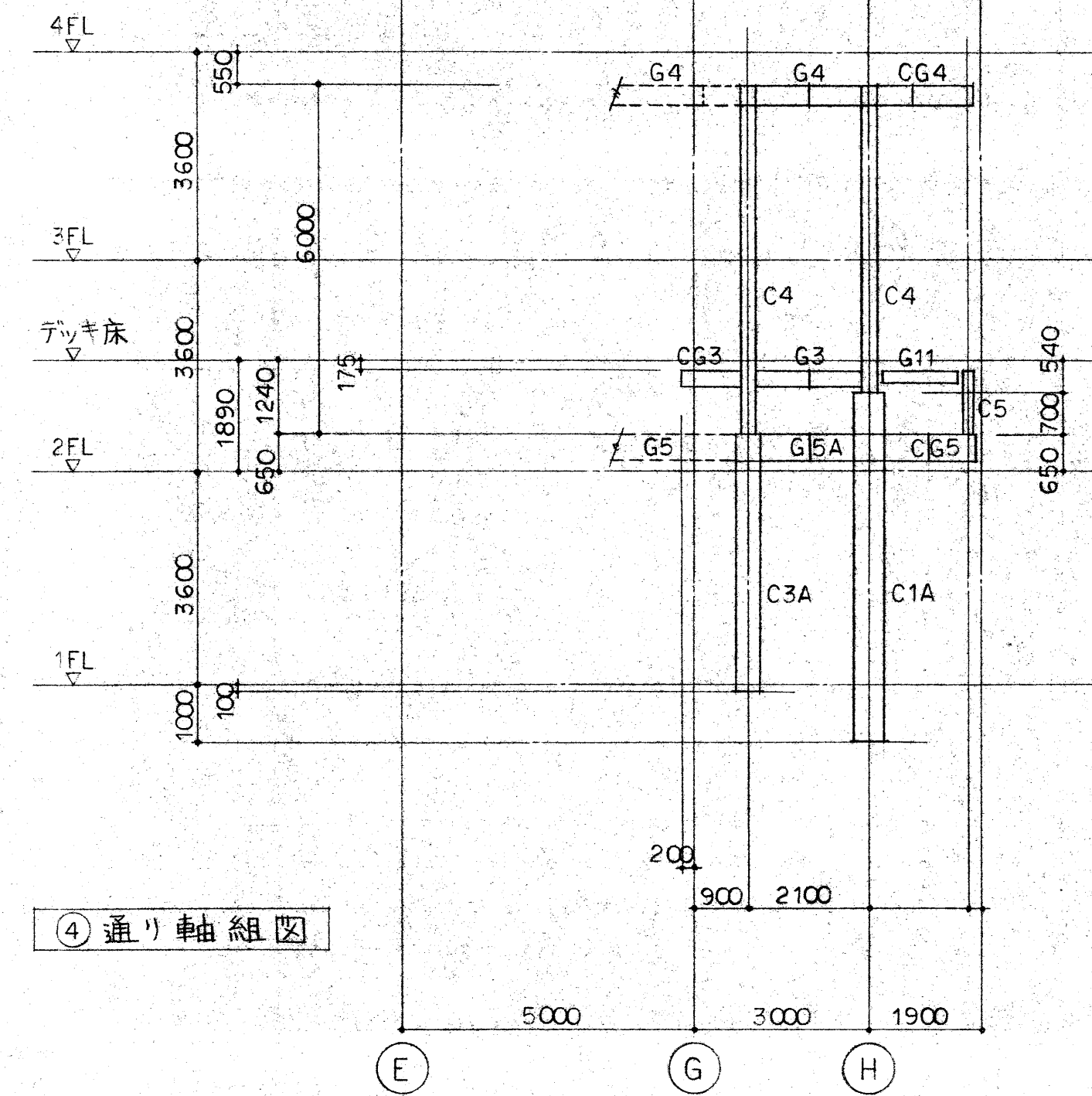
⑪ 面軸組図



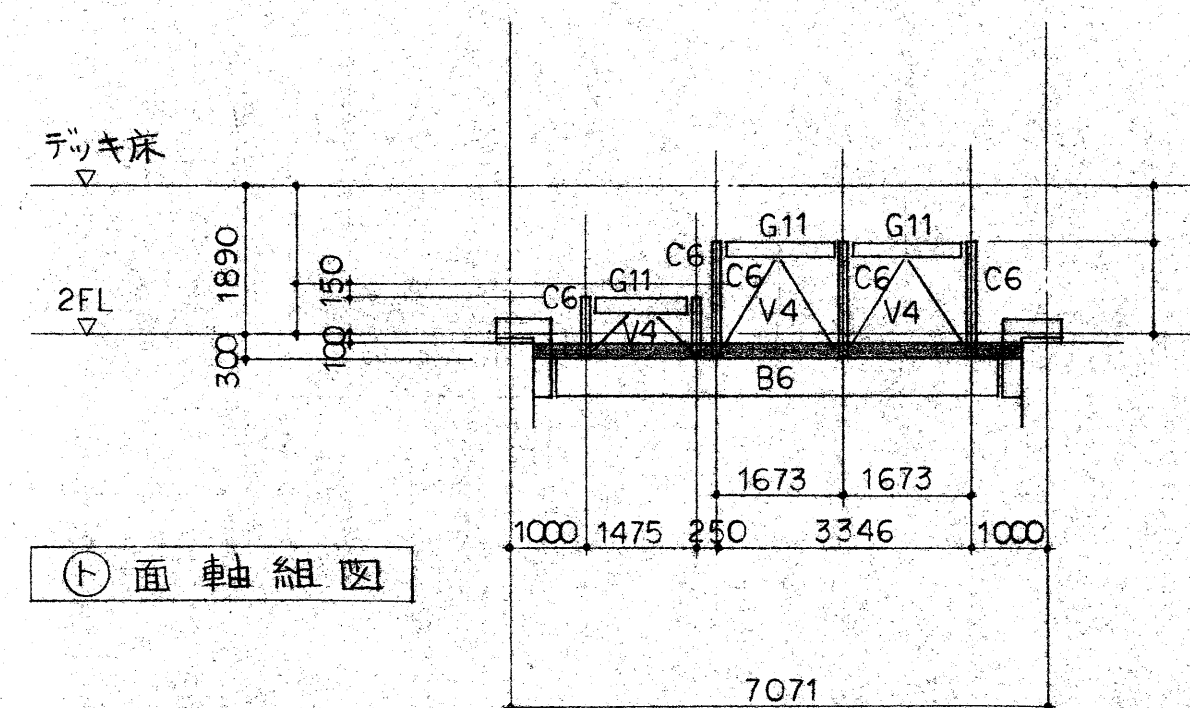
⑫ 通り軸組図



⑬ 面軸組図



⑭ 通り軸組図



⑮ 面軸組図

路線名	府中駅北口歩道橋設置工事		
工事名	府中市府中町一丁目1番地及び14番地		
工事箇所又は橋名	府中市府中町一丁目1番地及び14番地		
図面名称	グリーンプラザ デッキ軸組図	縮尺	1/100
図面番号			34
作成年月日	平成 年 月 日		
写図測量設計監査主査副主幹課長次長部長			

柱補強配筋断面表

1/50

(注) 帯筋は既設帯筋に溶接する。

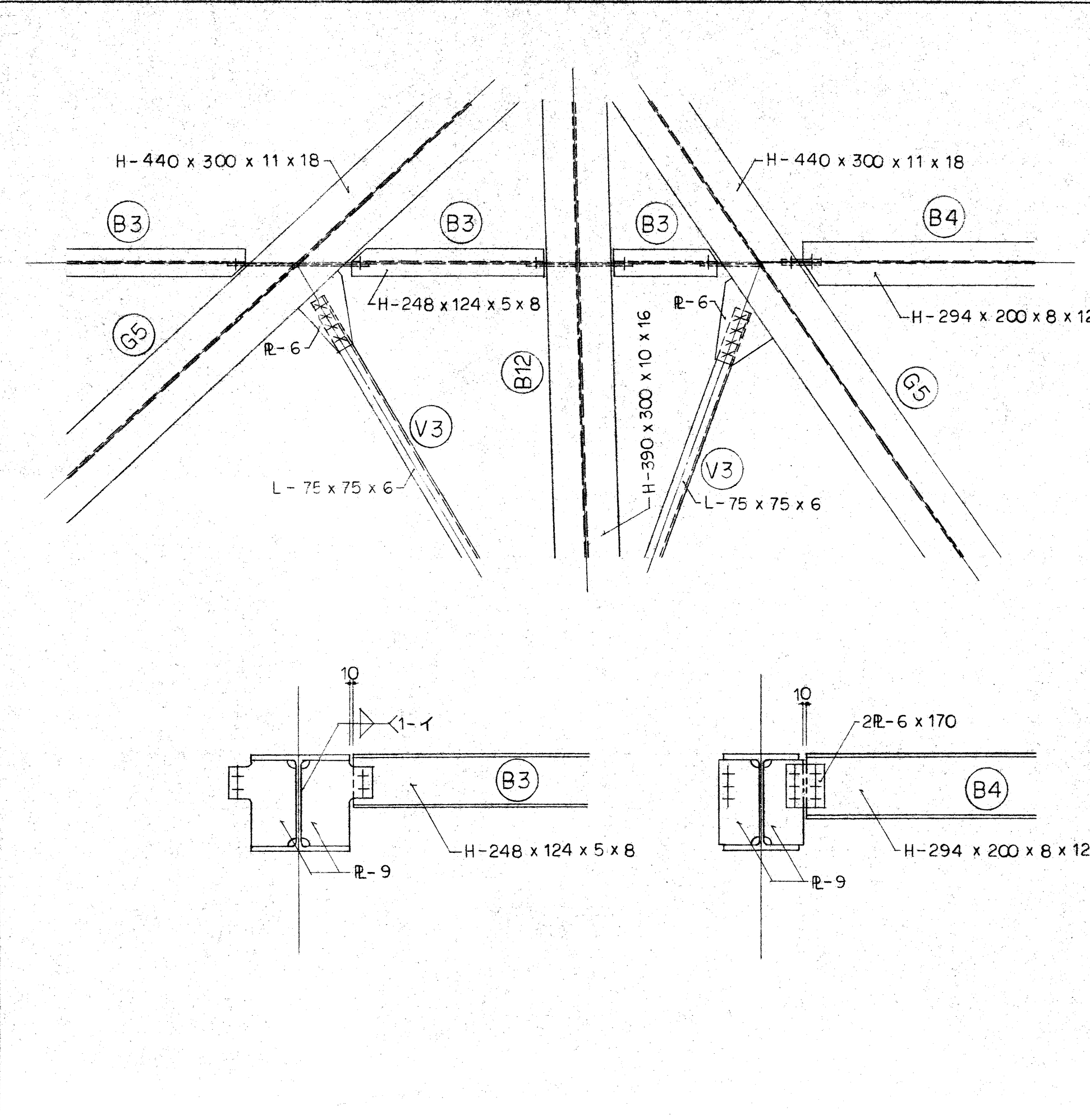
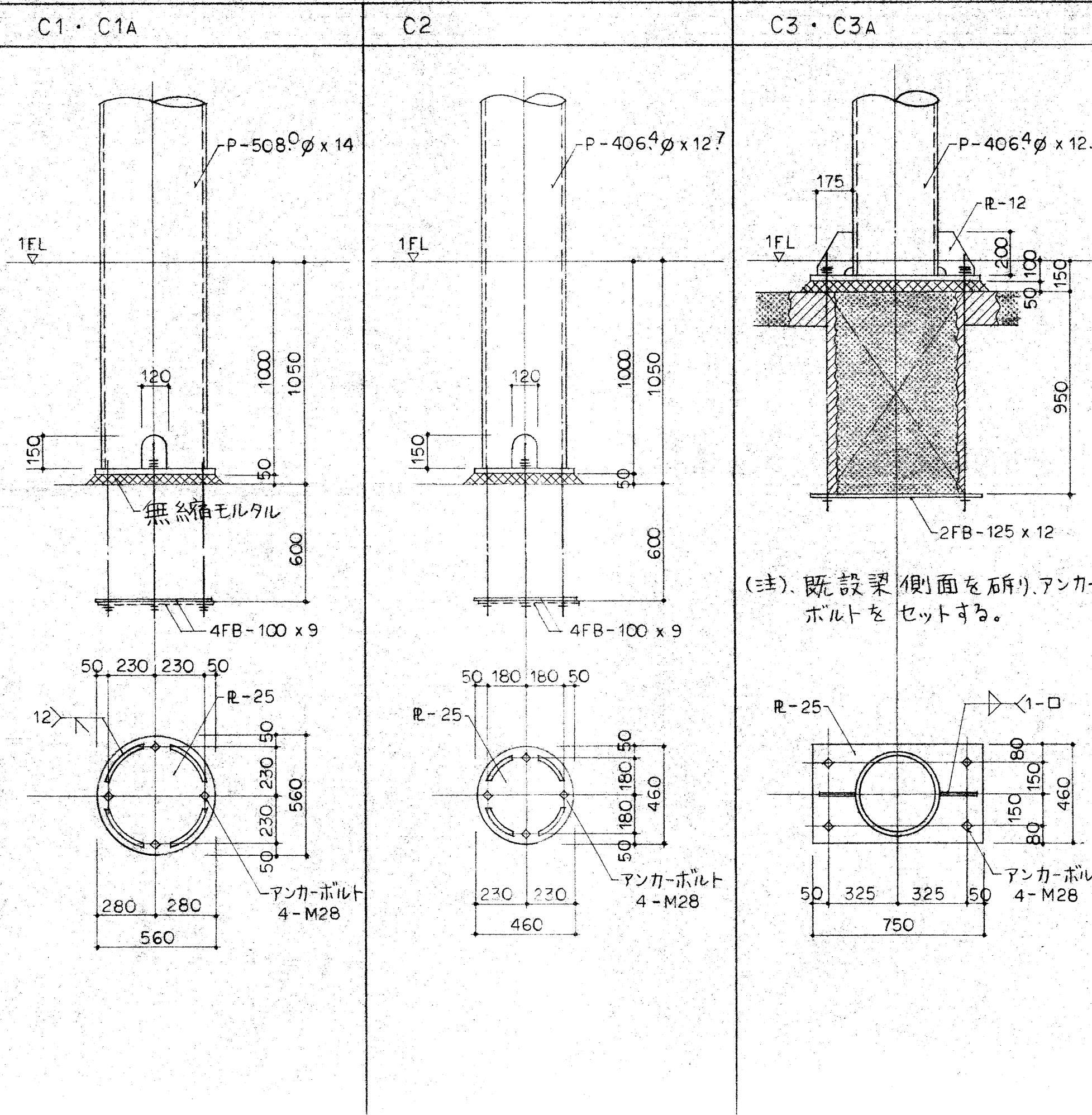
柱脚詳細図

1/20

小梁及び床面ブレースの取付け要領図

1/20

符号	C1	C1A	C2
B1階			
主筋	19-D19	19-D19	19-D19
帯筋	D13@100	D13@100	D13@100
備考			
符号	C3	C3A	
1階			
主筋	12-D19	12-D19	
帯筋	D13@100	D13@100	
備考			
B1階			
主筋	16-D19	26-D19	
帯筋	D13@100	D13@100	
備考			



柱補強配筋要領図

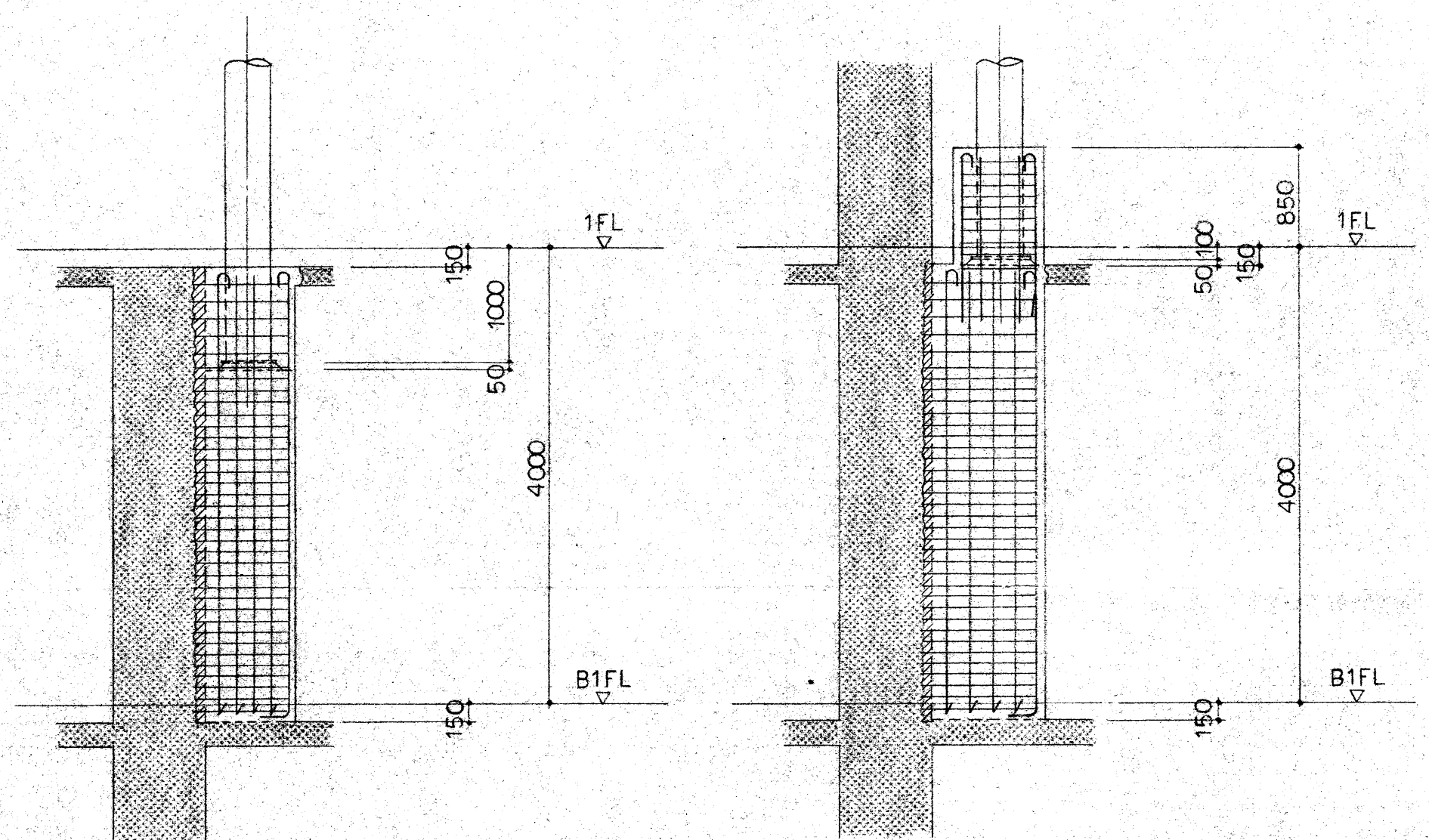
1/50

B6取付け詳細図

1/20

B10取付け詳細図

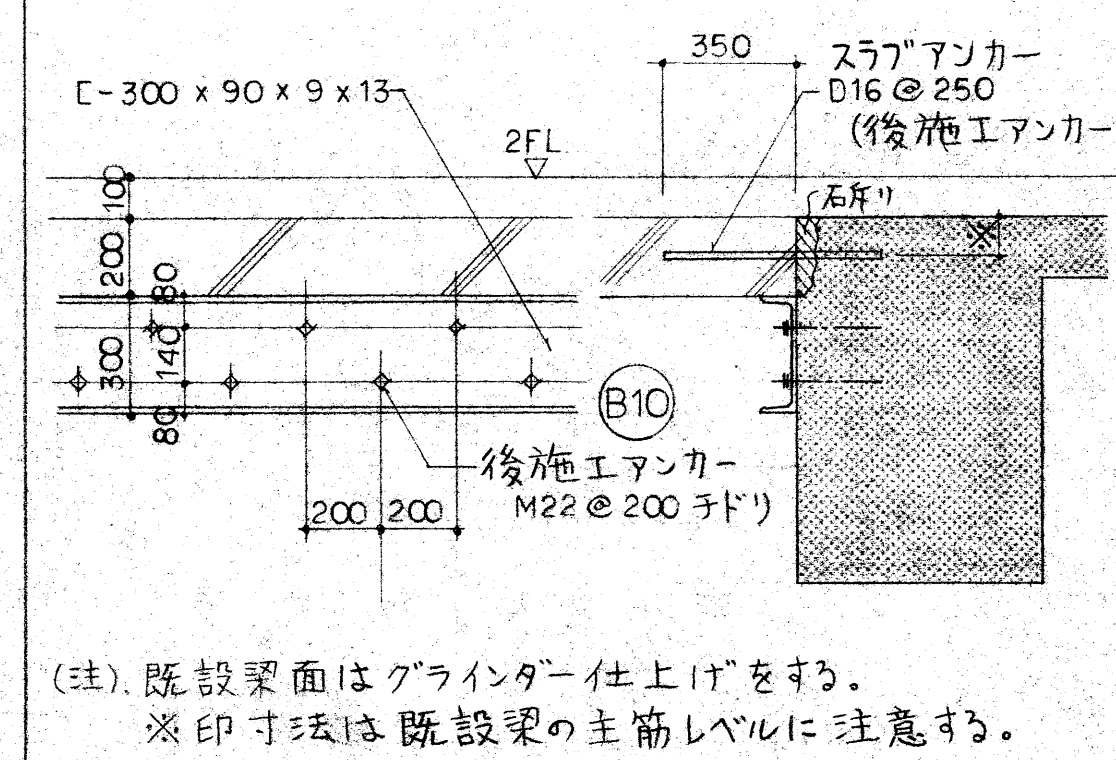
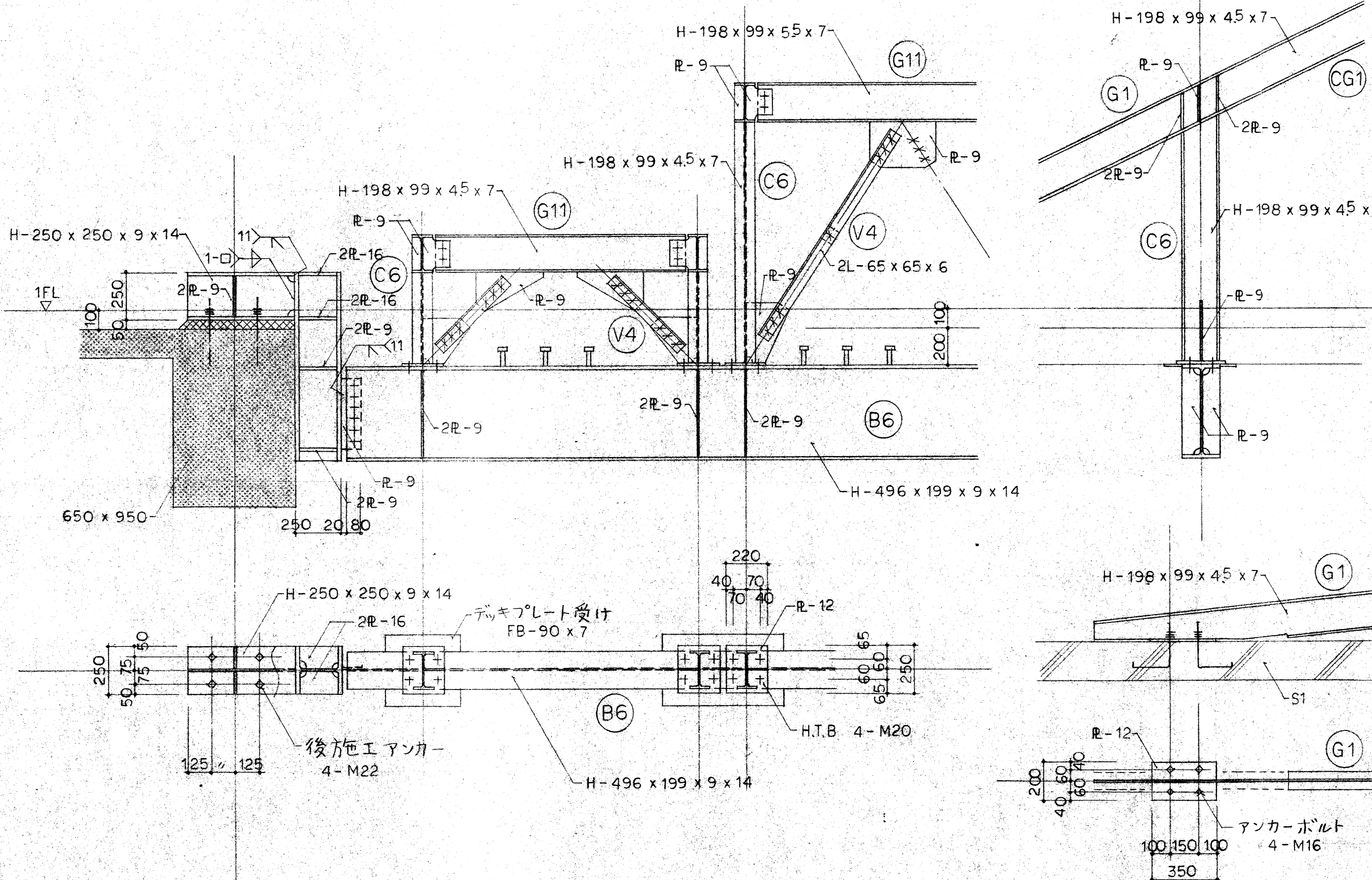
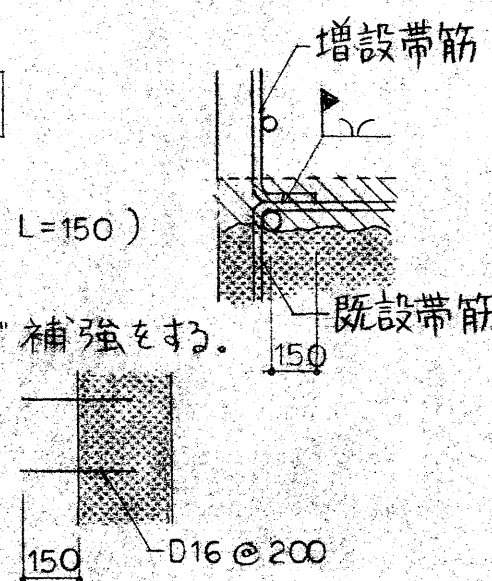
1/20



C1・C1A・C2柱

C3・C3A柱

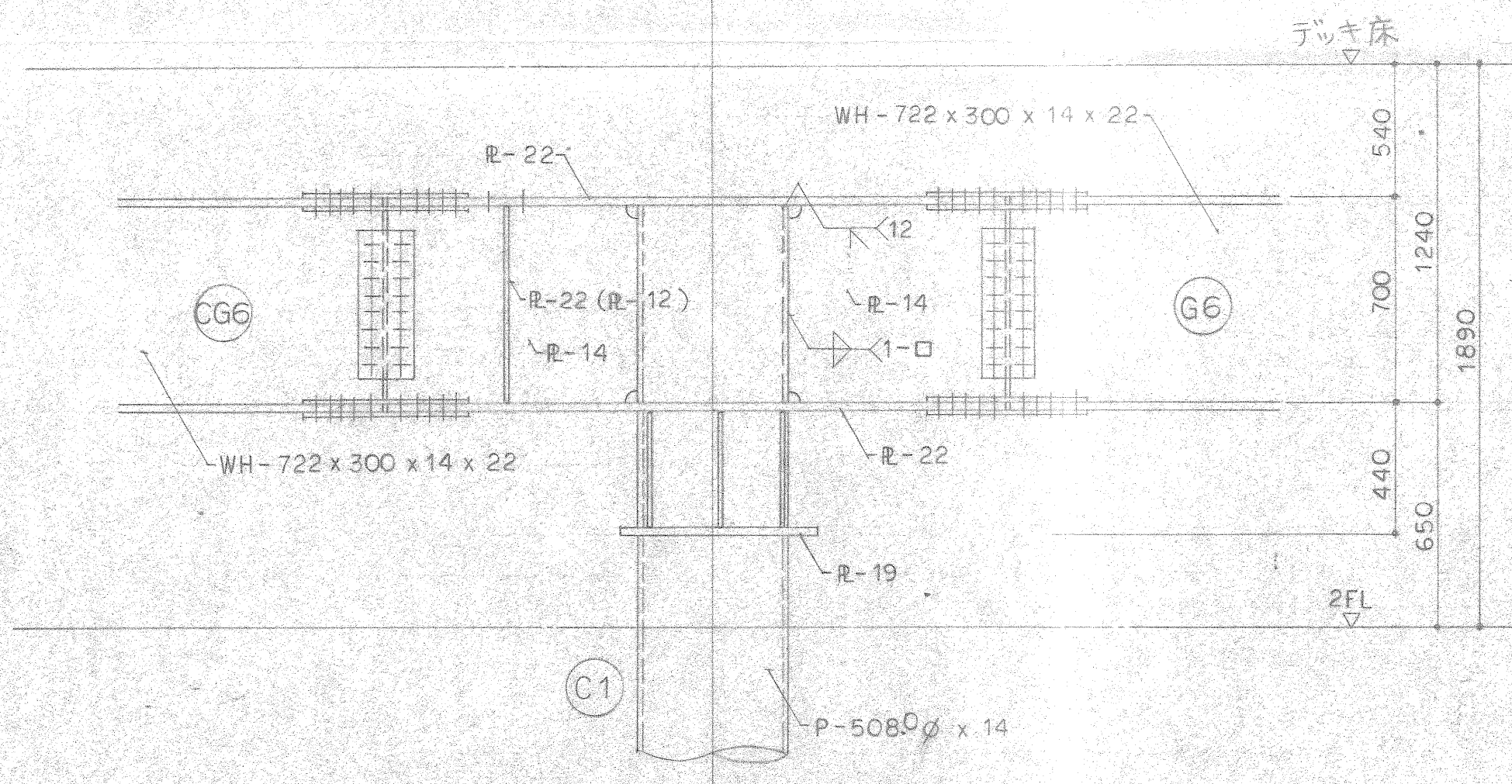
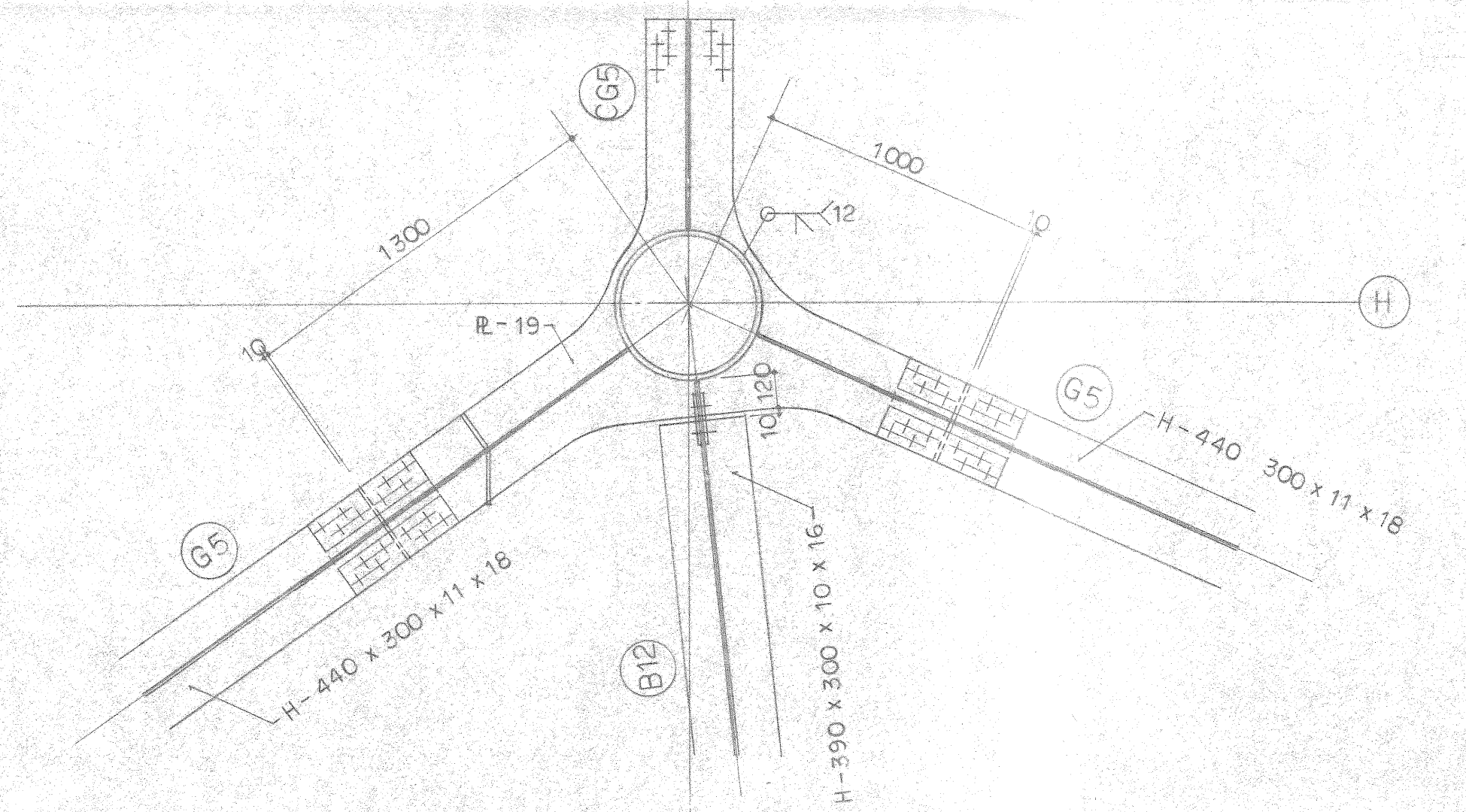
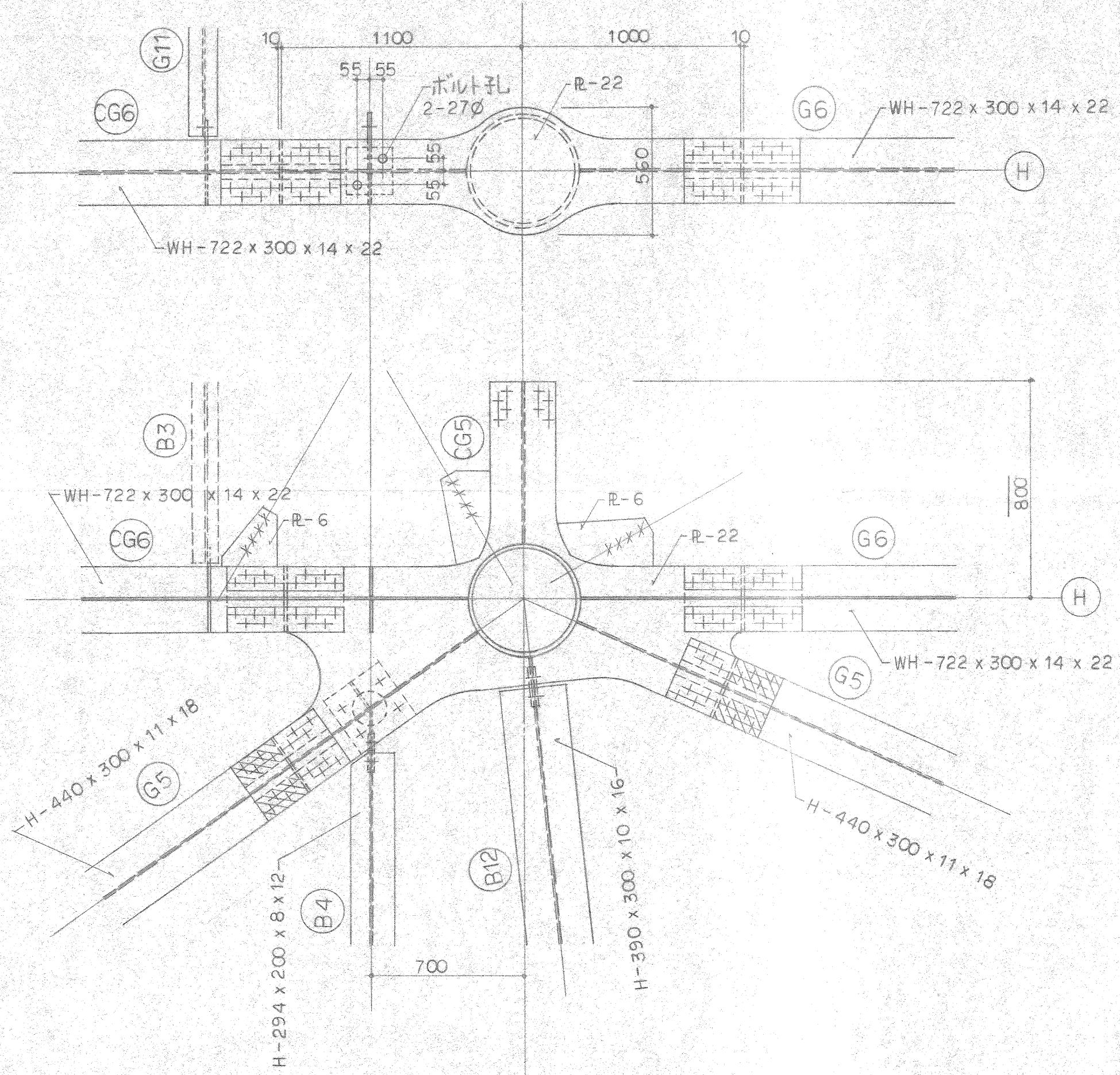
- (注) 1. 帯筋は既設柱の帯筋を研り出し溶接とする。(溶接長さL=150)
 2. その他の既設梁及び床スラブ面は目荒しとする。
 3. 既設壁面は目荒しの上、5(G)-D16@200 後施工アンカーで補強する。



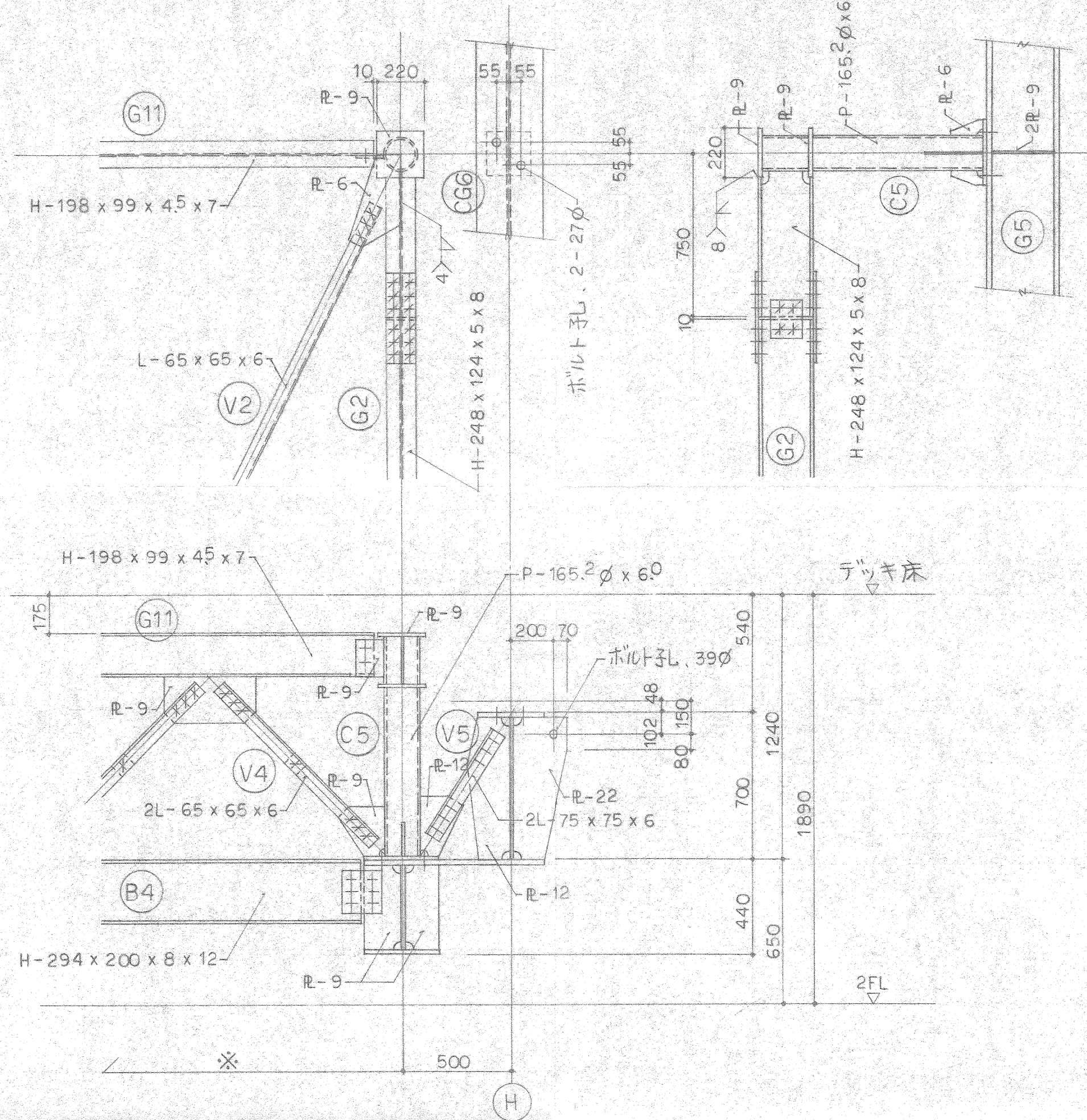
- (注) 既設梁面はグラインダー仕上げをする。
 ※印寸法は既設梁の主筋レベルに注意する。

路線名			
工事名	府中駅北口歩道橋設置工事		
工事箇所又は地名	府中市府中町一丁目1番地及び14番地		
図面名称	縮尺	1/50	図面番号
			35
作成年月日	平成	年	月
写図	測量	設計	照査
	主査	副主査	課長
	次長	部長	

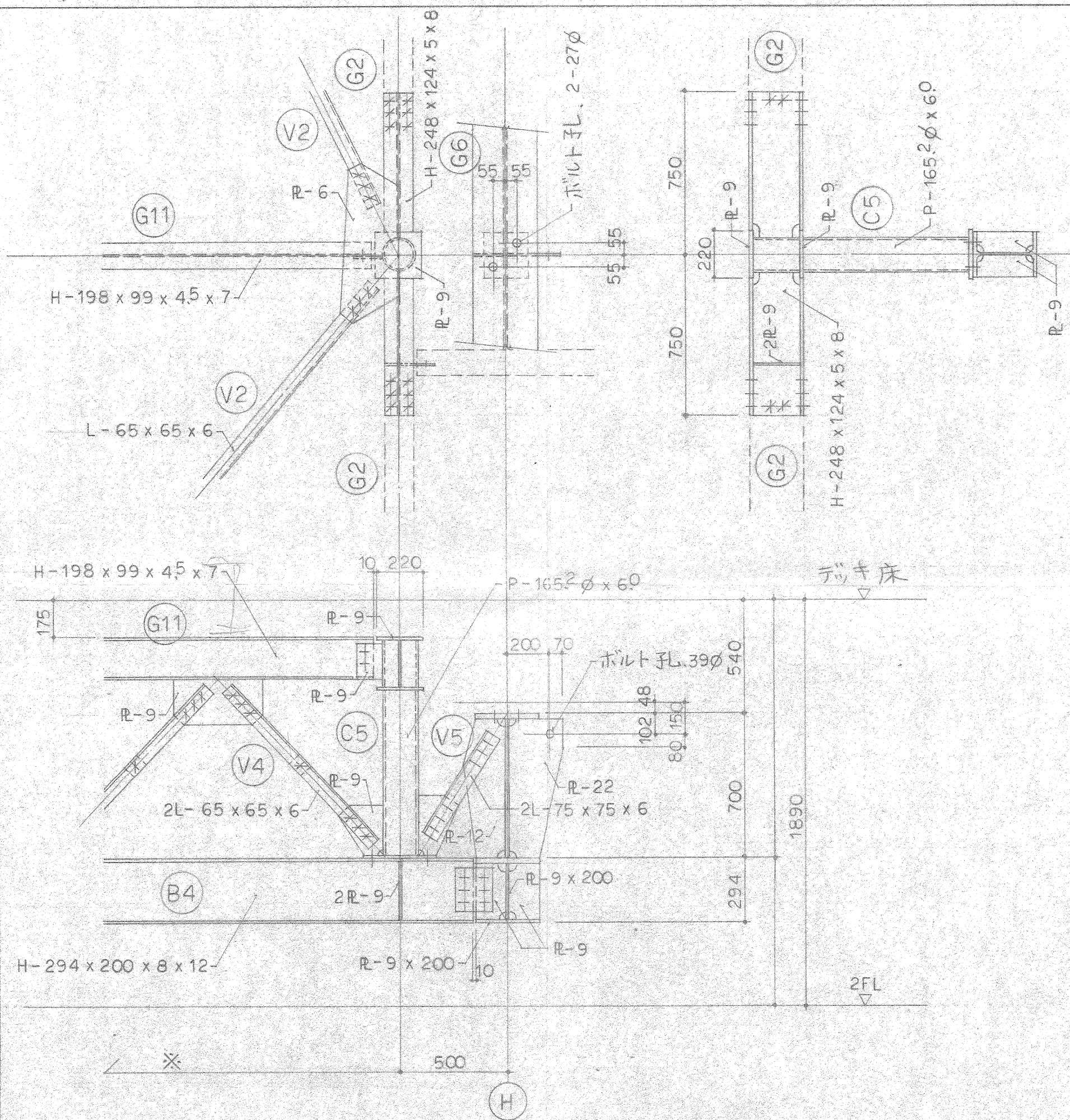
C1. 柱. 柱頭部の梁取合い詳細図 1/20



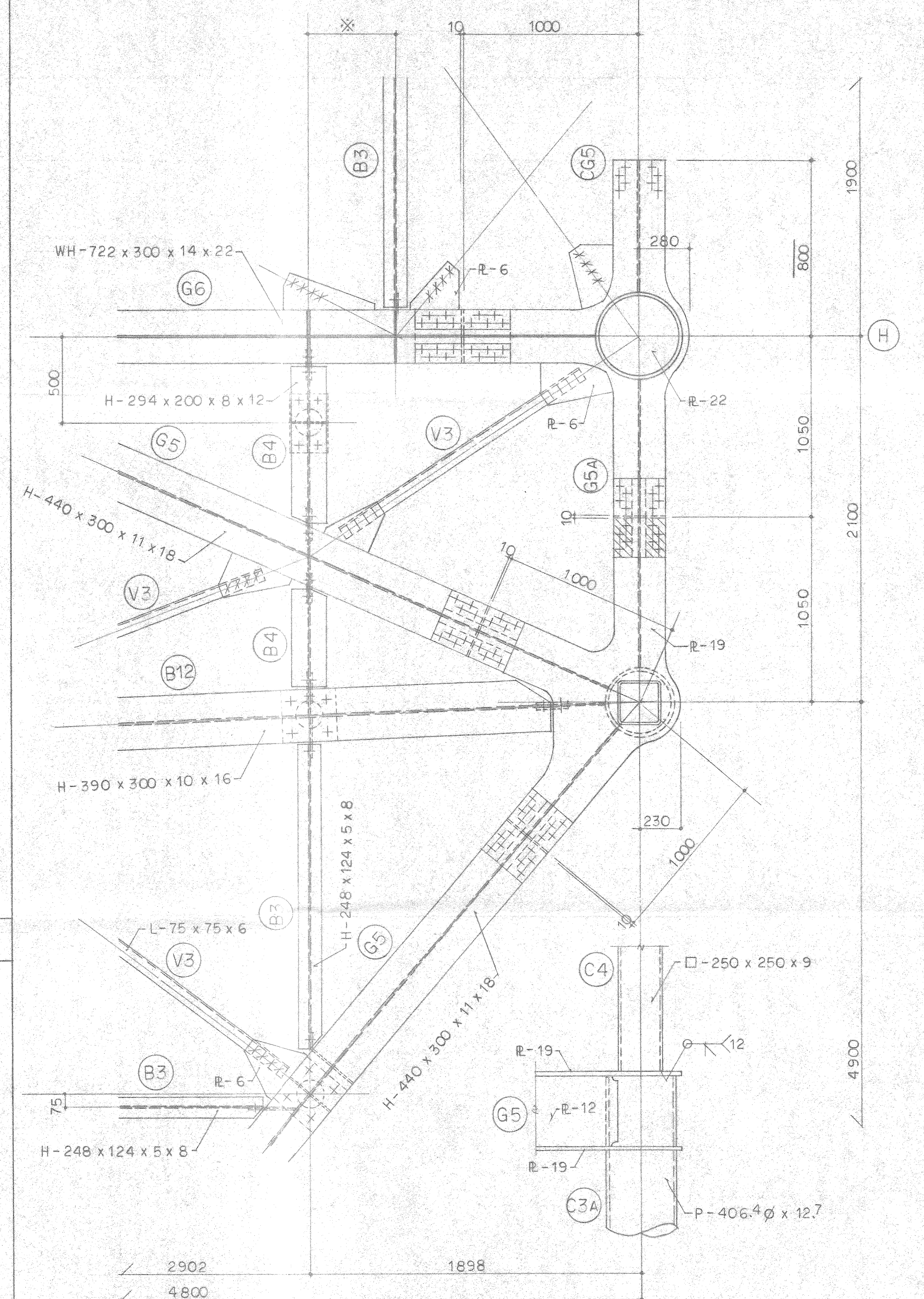
歩道橋主桁受け左側詳細図 1/20



歩道橋主桁受け右側詳細図 1/20



G5A 梁廻り取合い詳細図 1/20



路線名			
工事名	府中駅北口歩道橋設置工事		
工事箇所 又は橋名	府中市府中町一丁目1番地及び14番地		
図面名称	グリーンプラザ 鉄骨詳細図 (2)	縮尺	1/20
図面番号			36
作成年月日	平成 年 月 日		
製図	測量	設計	監査
主査	副主査	課長	次長
東京都府中市都市建設部			